

資料編

1. 環境調査結果等の状況
2. 市民・事業者アンケート
3. 伊万里市環境基本計画策定委員会設置要綱
4. 伊万里市環境基本計画策定委員名簿

1. 環境調査結果等の状況

本市では、環境に関する各種調査（大気、水質、騒音）を毎年計画的に実施しており、その調査結果をもとに環境基準と比較することで、市内における環境の現状把握と監視に努めています。

ここでは、市が測定した調査結果や佐賀県が調査した結果を用いながら、環境負荷の状況について説明します。

※環境基準

人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準として、どの程度に保つことを目標に施策を実施していくかという行政上の目標を定めた基準。

(1) 大気

大気環境を汚染する要因としては、硫黄酸化物（SO_x）、窒素酸化物（NO_x）、光化学オキシダント（O_x）、浮遊粒子状物質（SPM）があげられ、これらの物質は大気汚染防止法によって規制されています。

■ 主な大気汚染物質と人体などへの影響及び環境基準

汚染物質	主な発生源	人体への影響	環境基準
硫黄酸化物（SO _x ）	工場やビルで使用する燃料に含まれる硫黄分が燃焼に伴い排出される。	呼吸器を刺激し、気管支炎や喘息などを引き起こします。	◆二酸化硫黄（SO ₂ ） 1時間値の1日平均値が0.04ppm以下で、かつ1時間値が0.1ppm以下
窒素酸化物（NO _x ）	工場、ビル、自動車、家庭などで使用している各種燃料の燃焼に伴い排出される。	粘膜を刺激し、呼吸気道及び肺に障害を与えます。	◆二酸化窒素（NO ₂ ） 1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmまでのゾーン又はそれ以下
光化学オキシダント（O _x ）	工場、ビル、自動車などから排出される窒素酸化物、炭化水素などが紫外線により光化学反応を起こして生成される。	目を刺激し、頭痛、めまいを起こします。	1時間値が0.06ppm以下
浮遊粒子状物質（SPM）	工場等のボイラーによるばいじんを発生させる施設、自動車、船舶等の移動発生源及び火山や黄砂などのように自然起源のものもある。	喘息や気管支炎などの呼吸器系疾患への影響や循環器系へ影響を与えます。	◆微小粒子状物質（PM _{2.5} ） 1年平均値が、1m ³ あたり15μg以下であり、かつ、1日平均値が1m ³ あたり35μg以下

【伊万里市】

本市では、大気汚染物質の一つである、「二酸化窒素（NO₂）」の測定を実施しています。

測定方法としては、ガスパックという簡易測定器を各測定地点に1ヶ月間設置し、その月の二酸化窒素濃度を測定しており、これを年間を通して行います。

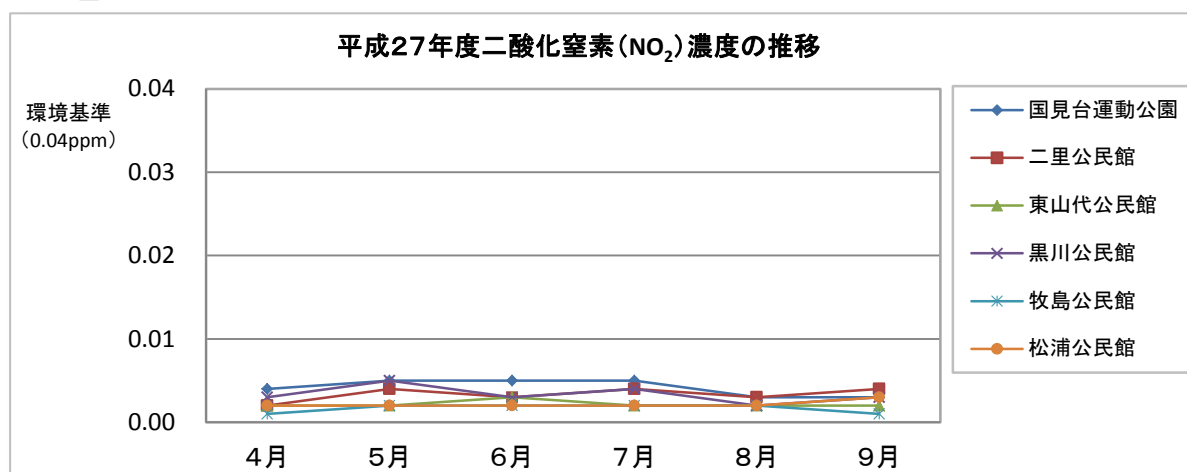
測定は、①二里町国見台運動公園、②二里公民館、③東山代公民館、④黒川公民館、⑤牧島公民館、⑥松浦公民館で測定を行っています。平成27年度（4月から9月）については、すべての地点において環境基準を達成していました。【図1】

なお、過去5年間の測定結果をみても、環境基準値の超過はなく、良好な大気環境を維持しているといえます。【図2】

※ガスパック法

大気中の二酸化窒素（NO₂）などの簡易測定方法。分子拡散を利用し、長時間にわたり補集するもので、風速、温度、湿度などにより、影響を受けない構造になっている。

■ 図1

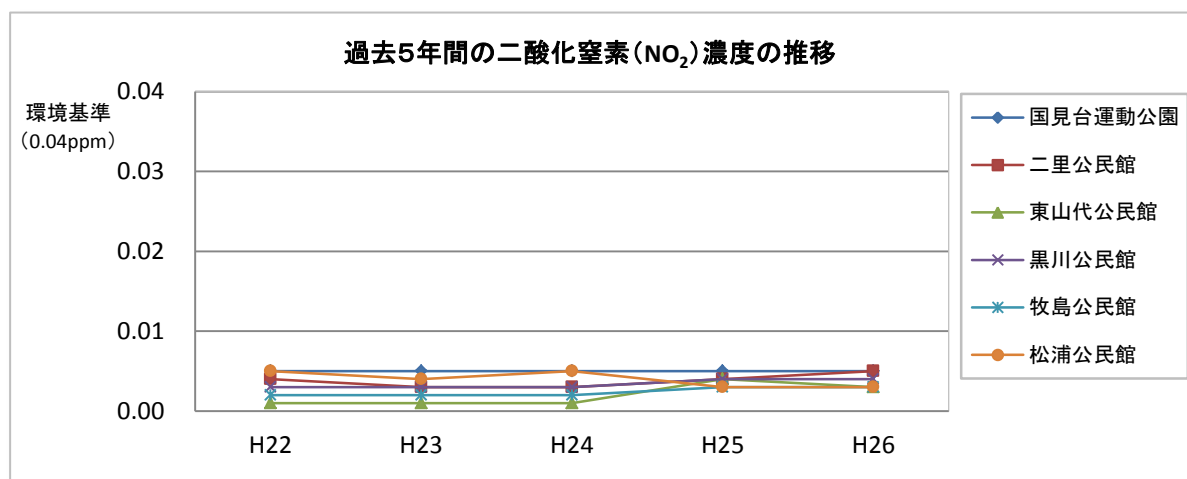


※ppm

100万分の1を1ppmといい、濃度を表す単位です。

水の場合では、1kg中に1mg、大気の場合は、1m³中に1cm³含まれていることを表しています。

■ 図2



【佐賀県】

市内には、佐賀県が測定及び結果の公表を行っている大気環境の自動測定局が6箇所あります。大坪町、山代町、黒川町の測定局は「佐賀県」が設置したもので、南波多町、大川町、東山代町の測定局は、「九州電力株式会社」と「電源開発株式会社」が設置したものです。

この測定局では、二酸化硫黄（SO₂）、一酸化窒素（NO）、二酸化窒素（NO₂）、光化学オキシダント（Ox）、浮遊粒子状物質（SPM）、微小粒子状物質（PM2.5）等の自動測定を毎日行っています。

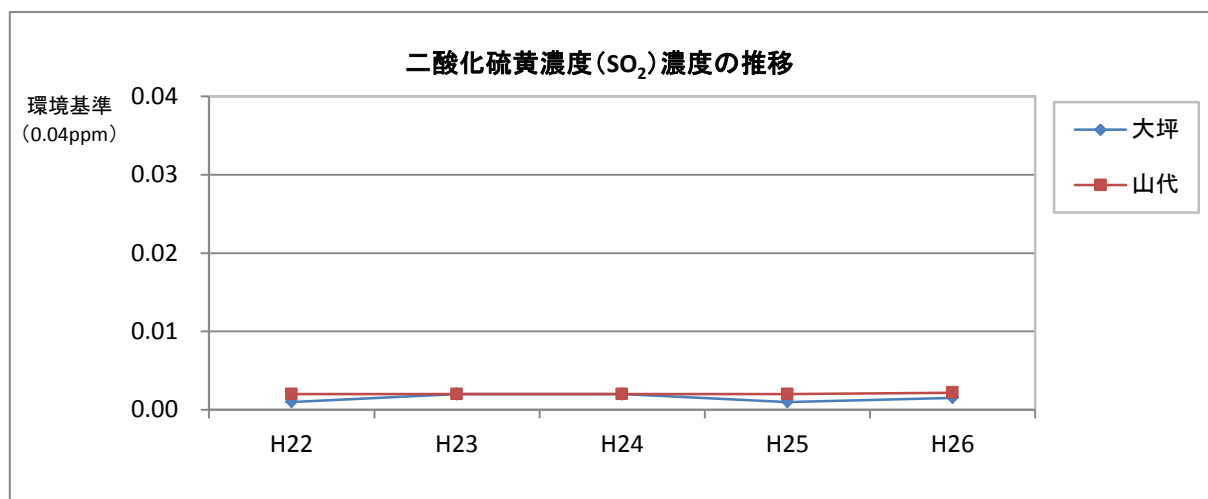
ここでは、伊万里市の二酸化硫黄（SO₂）、光化学オキシダント（Ox）、微小粒子状物質（PM2.5）の測定結果について、推移をみてみます。

二酸化硫黄（SO₂）

二酸化硫黄については、近年、硫黄分の多い燃料（石炭や重油）から硫黄分の少ない又は硫黄分を含まない燃料（液化天然ガスなど）への燃料転換、あるいは、排出ガスから硫黄を除去する脱硫装置の設置などの大気汚染防止対策の進展により、全国的に硫黄酸化物の濃度は低くなっている傾向にあります。

伊万里市においても、過去5年間の測定値をみると環境基準 0.04ppm を下回る値で推移しているため、良好な状態を維持しているといえます。【図3】

■ 図3



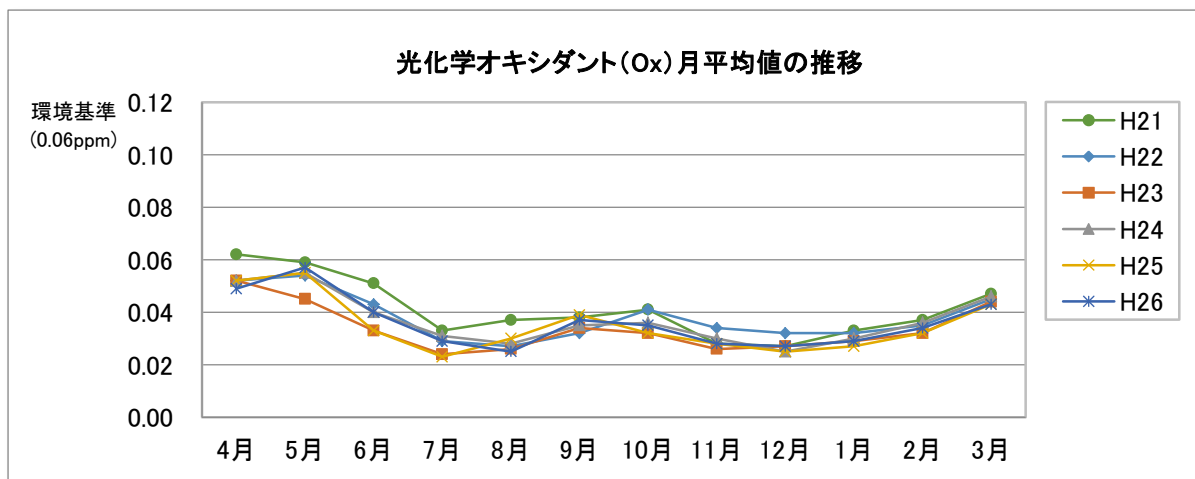
光化学オキシダント（Ox）

光化学オキシダントは、春から秋にかけての晴れた日に高濃度となる傾向があり、①気温が高い、②日差しが強い、③風が弱いときは特に注意が必要になります。

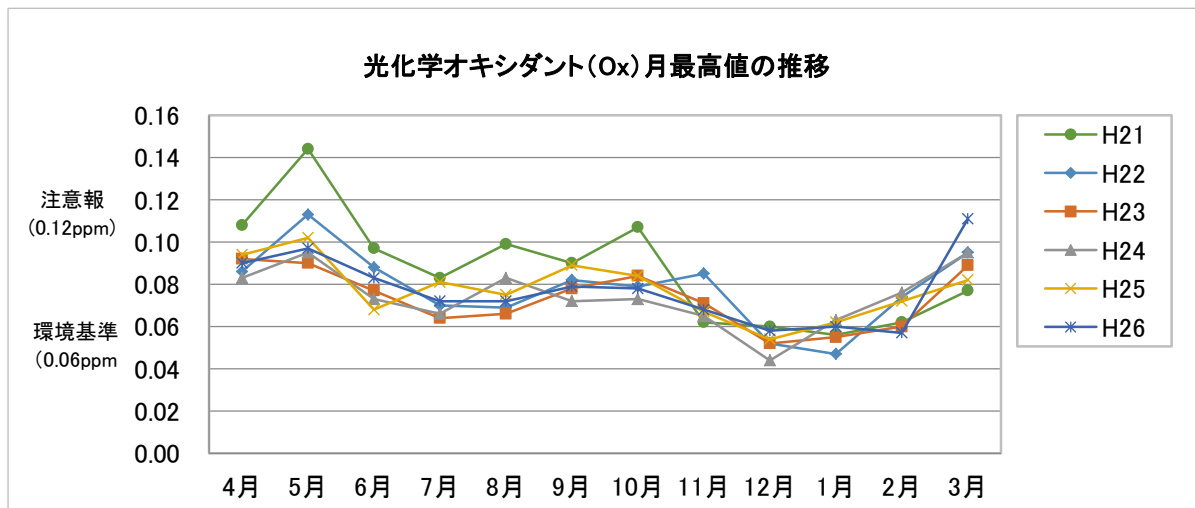
【図4】の月平均値でみると、環境基準 0.06ppm を達成していますが、【図5】の月別の1時間最高値をみると基準を超える時間帯が確実にあると言える状況です。

また、平成21年度には、伊万里市において、注意報基準（1時間値が0.12ppm）を超える数値が記録され、伊万里市全域に対して注意報が発令されました。

■ 図4



■ 図5



■ 光化学オキシダント測定値の推移

単位：ppm

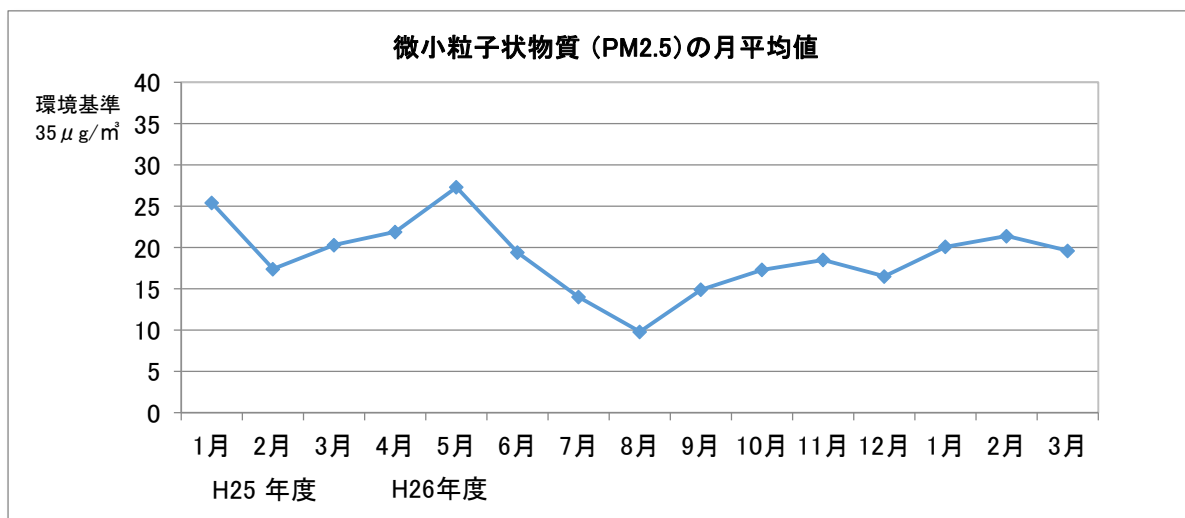
項目		H21	H22	H23	H24	H25	H26
1時間値の平均値		0.041	0.038	0.034	0.037	0.035	0.433
1時間値の最高値		0.144	0.113	0.092	0.095	0.102	0.609
環境基準超過	日	133	110	65	92	97	88
	時間	957	698	399	510	553	557
注意報超過	日	2	0	0	0	0	0
	時間	12	0	0	0	0	0

微小粒子状物質 (PM2.5)

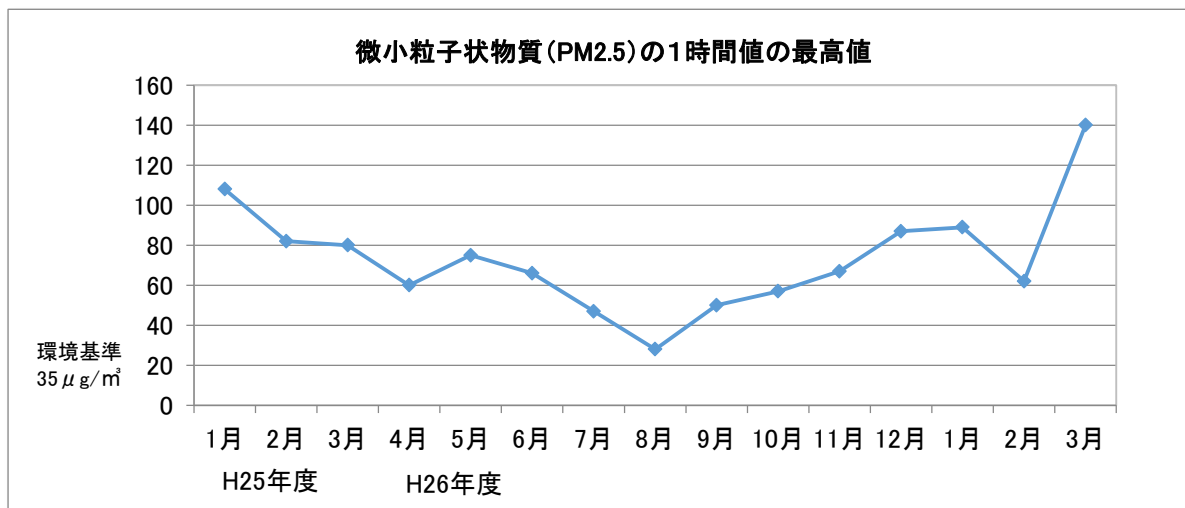
微小粒子状物質については、近年、大陸からの越境汚染が大きな原因で濃度が高くなっている傾向があります。佐賀県ではこの状況を受けて、平成25年度に県内における測定地点を増設し、伊万里市においても、大坪局（大坪公民館）で測定が行われるようになりました。

平成26年度には微小粒子状物質の濃度上昇により、佐賀県で初めて県内全域に対して注意喚起が行われました。伊万里市における測定結果の推移は【図6・図7】のとおりです。

■ 図6

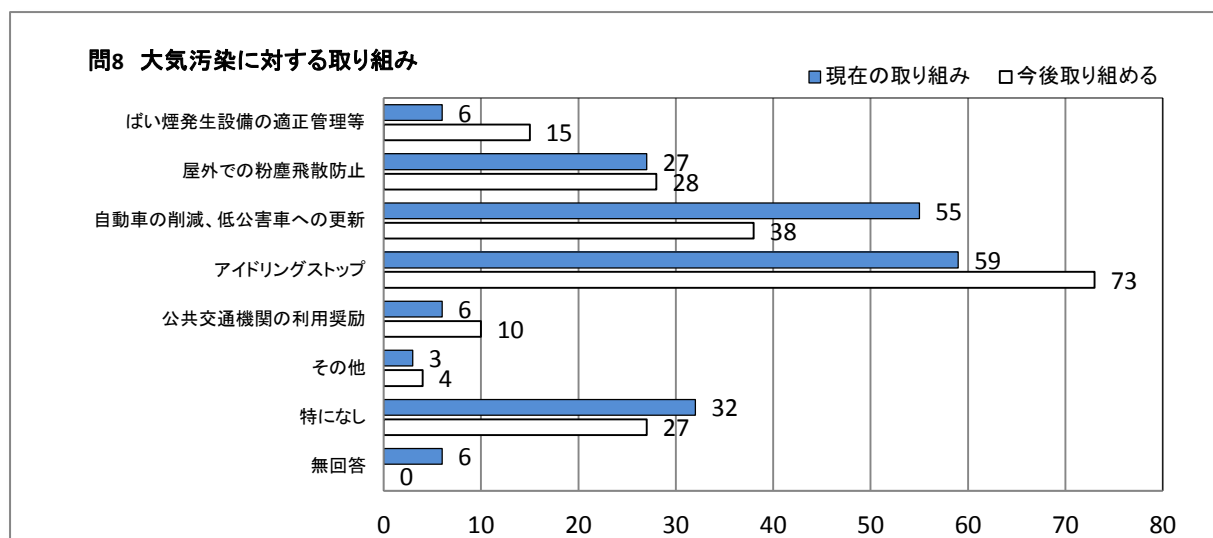


■ 図7



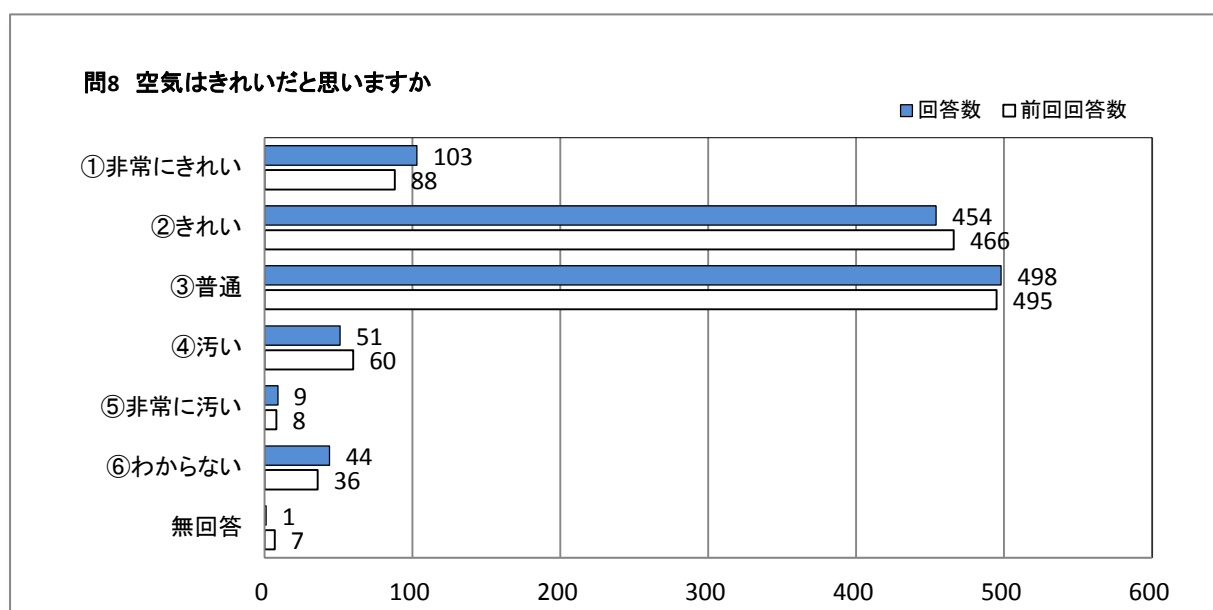
事業者の取り組み

市内の事業者220社に環境に関するアンケートを依頼し、136社の回答を得ました。このアンケートでは大気汚染を考慮した今後の取り組みについて尋ねています。今後取り組むこととして最も多かったのは「アイドリングストップ」であり、136社中59社が今後取り組むと回答しています。また、多くの企業で今後新たにに取り組めると回答された項目があり、その実現が強く望まれます。



市民の意識

市民アンケートでは、空気に対して「非常にきれい」と「きれい」、「普通」と回答した人が全体の9割を占めており、満足していると考えられますが、光化学オキシダント等の測定結果を考えると自動車の利用など市民1人ひとりが大気汚染についてより考えていく必要があります。



(2) 水環境①河川水

ここでは河川の水質汚濁の程度を評価するのに重要な生物化学的酸素要求量（BOD）で推移をみてみます。

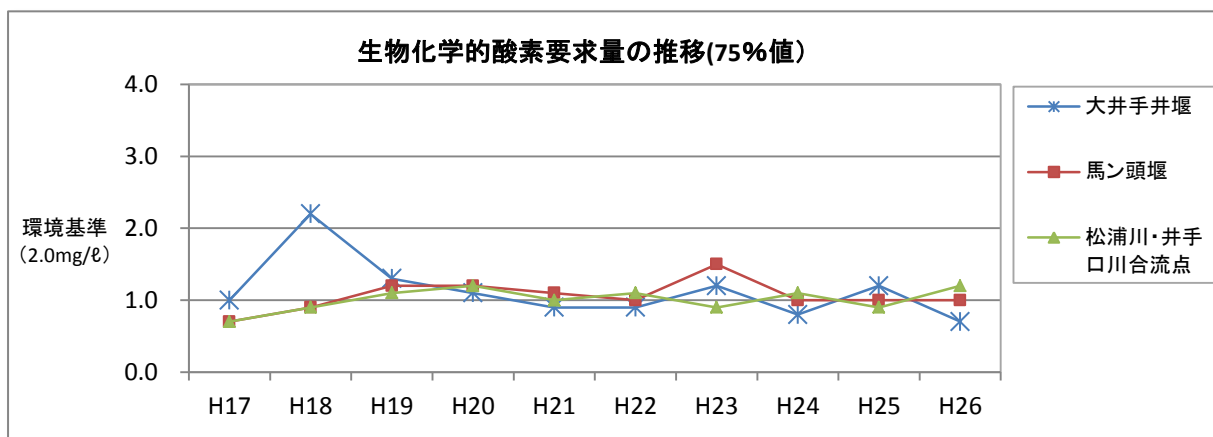
※生物化学的酸素要求量（BOD）

河川の水の中の有機物が微生物によって分解されるときに消費される酸素量のことで、一般にこの数値が大きいほどその水中に有機物が多く水質が汚濁しているといえます。

【伊万里市】

本市では、8箇所の河川で定期的に水質調査を行っています。そのうち環境基準が定められている河川は、有田川の大井手井堰（二里町吉野）と松浦川の馬ノ頭堰（松浦町上原）、松浦川井手口川合流点（大川町川西）です。

測定する項目は、生活環境の保全に関する項目として、①水素イオン濃度（pH）、②生物化学的酸素要求量（BOD）、③浮遊物質（SS）、④溶存酸素量（DO）、⑤大腸菌群数、⑥全窒素（T-N）、⑦全リン（T-P）を測定しています。



※75%値

年間の日間平均値の全データをその値が小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$ 番目（ n は日間平均値のデータ数）のデータ値をもって75%水質値としています。

環境基準値と比較して水質の程度を判断する場合は、この75%値を用いることとなっています。

これらの河川の水質環境基準は 2.0mg/l であり、概ね環境基準を達成しているといえます。

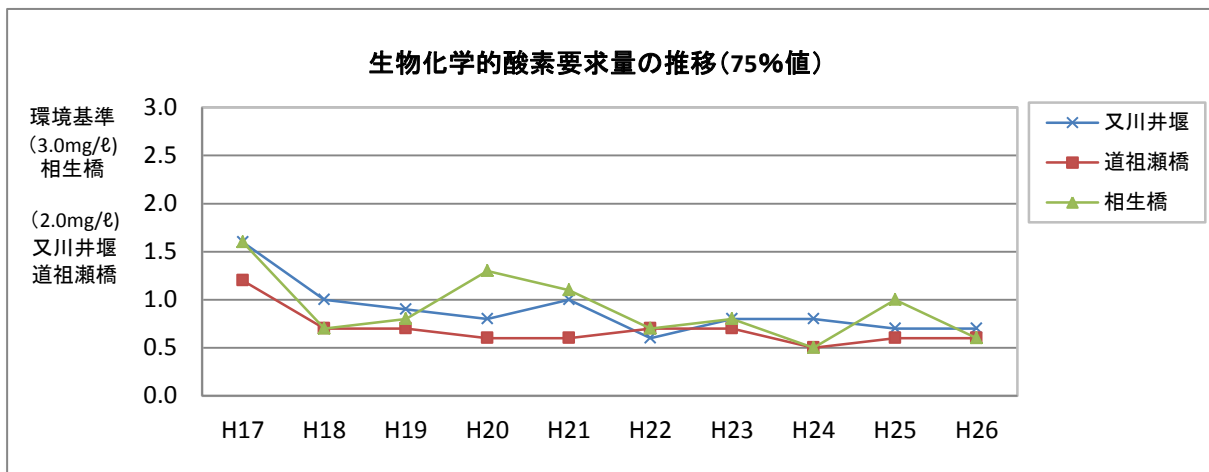
平成18年度に大井手井堰で基準を超過した数値（ 2.2mg/l ）が測定されましたが、年間を通して超過していたというものではなく、一過性のものであり、生物化学的酸素要求量（BOD）と関係が深い溶存酸素量（DO）の数値は基準内で推移していたことから、環境に影響があるようなものではなかったと考えられます。

【佐賀県】

佐賀県においても市内3箇所で水質調査が実施されており、有田川の又川井堰（二里町川東）、伊万里川の道祖瀬橋（大川内町市村）はA類型、伊万里川の相生橋（相生町）はB類型にそれぞれ環境基準が定められています。A類型については、ヤマメやイワナ等の水産に適應する水質と定められており、B類型はサケ科魚類やアユ等の水産に適應する水質と定められています。

過去10年間の測定値をみても、環境基準超過はなく良好な状況にあるといえます。

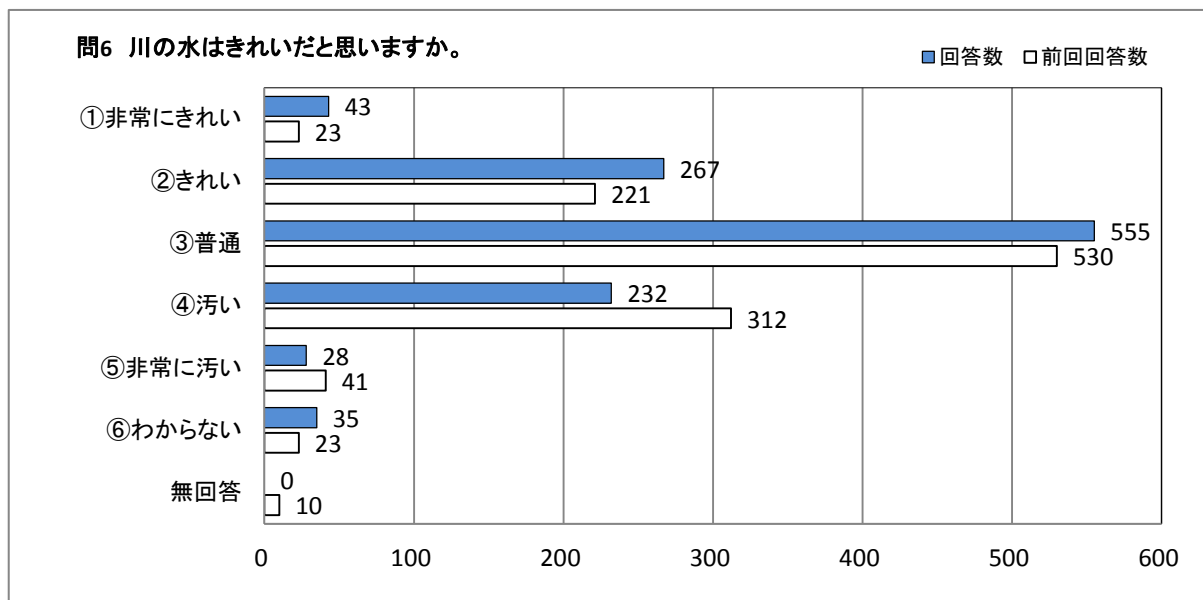
これは、本市が測定した河川の調査結果にも共通していえることですが、近年、公共下水道や浄化槽の普及が進んでいることや、工場等から排出される排水についても、法律や市との間で締結する環境保全協定等において厳しい基準を設けていることが水質の悪化を抑制しているといえます。



市民の意識

市民アンケートでは、川の水に対して「非常にきれい」「きれい」と回答した人が前回回答数（10年前）より多くなっています。これは生物化学的酸素要求量（BOD）の測定の結果からもわかるように、水質が良好な状況であることがいえます。

この状況を維持または更に改善していくために、それぞれの家庭で使用する洗剤の量を適正にするなど川の水質に配慮した生活にすることが必要です。



(2) 水環境②海水

ここでは海水の水質汚濁の程度を評価するのに重要な化学的酸素要求量（COD）で推移をみてみます。

※化学的酸素要求量（COD）

水の中の有機物を過マンガン酸カリウム等の酸化剤で酸化するとき消費される酸素量のこと、一般にこの数値が高いほどその水中に有機性汚濁物質の量が多いといえます。

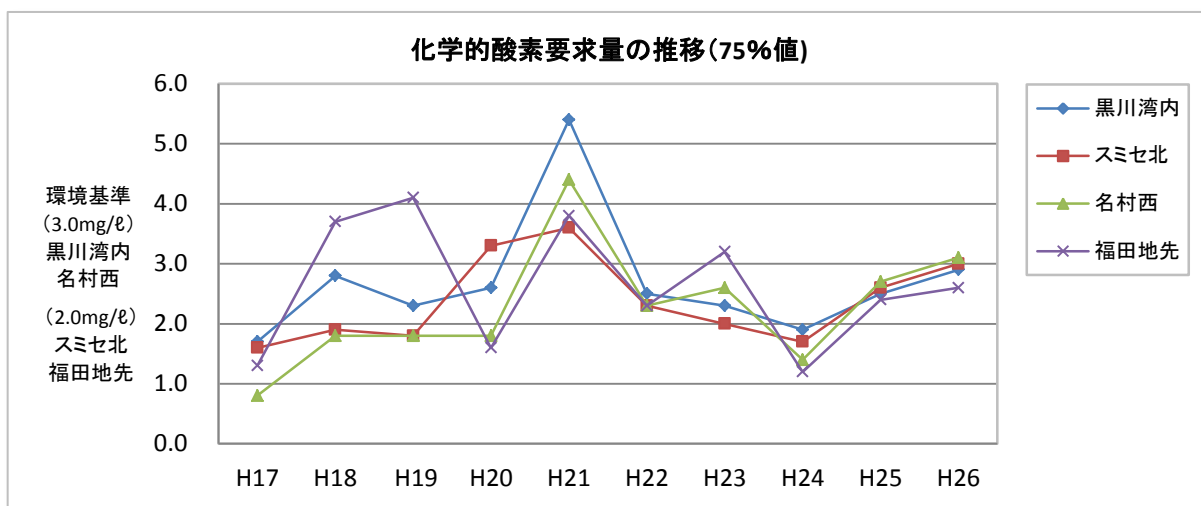
【伊万里市】

本市では、伊万里湾内の4地点で海水調査を実施しています。

環境基準については、黒川町福田と山代町浦ノ崎を結ぶ線より南側をA類型Ⅲ類型に、その線より北側をB類型Ⅱ類型に定めています。

A類型は水浴に適し、マダイやブリ等の水産に適応する水質として定められており、B類型はポラ、ノリ等の水産に適応する水質として定められています。

測定する項目は、生活環境の保全に関する項目として、①水素イオン濃度（pH）、②化学的酸素要求量（COD）、③浮遊物質（SS）、④溶存酸素量（DO）、⑤全窒素（T-N）、⑥全リン（T-P）、⑦塩化物イオンとしています。



本市が測定している海水の環境基準は、黒川湾内及び名村西では化学的酸素要求量（COD）が 3.0mg/l、スミセ北及び福田地先は 2.0mg/l となっています。

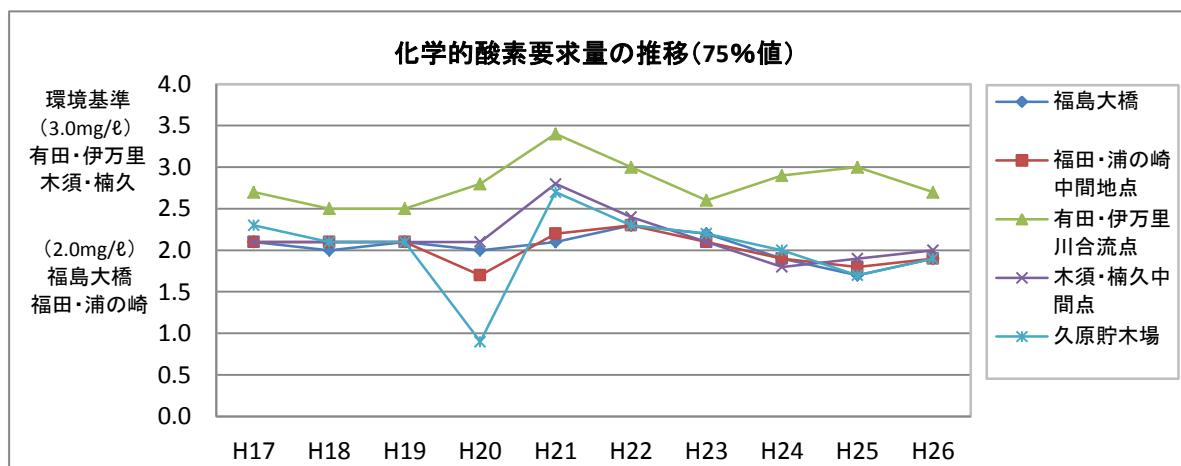
平成21年度に環境基準を上回る数値が記録されていますが、それ以降は基準内で推移しており、過去10年間をみても概ね良好な状況にあるといえます。

【佐賀県】

佐賀県は A 類型で 2 箇所、B 類型の 3 箇所で行って化学的酸素要求量（COD）の水質測定を行っており、環境基準としては、A 類型で 2.0mg/l、B 類型で 3.0 mg/l と定められています。

A 類型の福島大橋と福田・浦の崎中間点では、平成 23 年度までは若干の基準値超過はみられるものの、平成 24 年度以降は基準内で推移しており、良好な状況だといえます。

B 類型では有田・伊万里川合流点、木須・楠久中間点、久原貯木場の 3 点で測定しています。平成 21 年度に有田川・伊万里川合流点で環境基準超過がみられたものの、それ以降は基準内で推移しています。



市と県の調査結果から、海水の水質は全体的に良好な状態にあるといえます。これは、生活排水や工場排水が河川を通じて海へ流入しますが、河川の水質状況が良好な状態に保たれていることから、海水の水質も安定しているといえます。

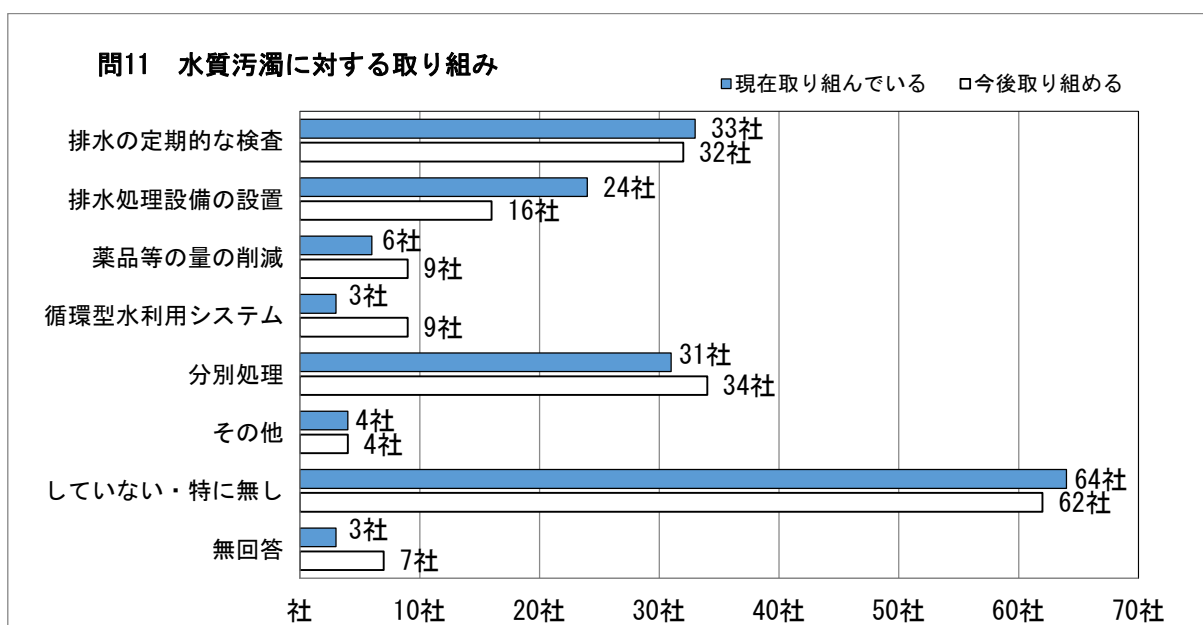
ただ、伊万里湾は閉鎖性海域であることから、赤潮、貧酸素水塊といった富栄養化に伴う環境保全上の問題が懸念されますので、引き続き監視に努めていきます。

事業者の取り組み

本市では、事業活動に伴う排水が環境に多大な影響を及ぼす可能性がある事業所との間に、佐賀県条例よりも厳しい排水基準の遵守を義務づける環境保全協定を締結しています。

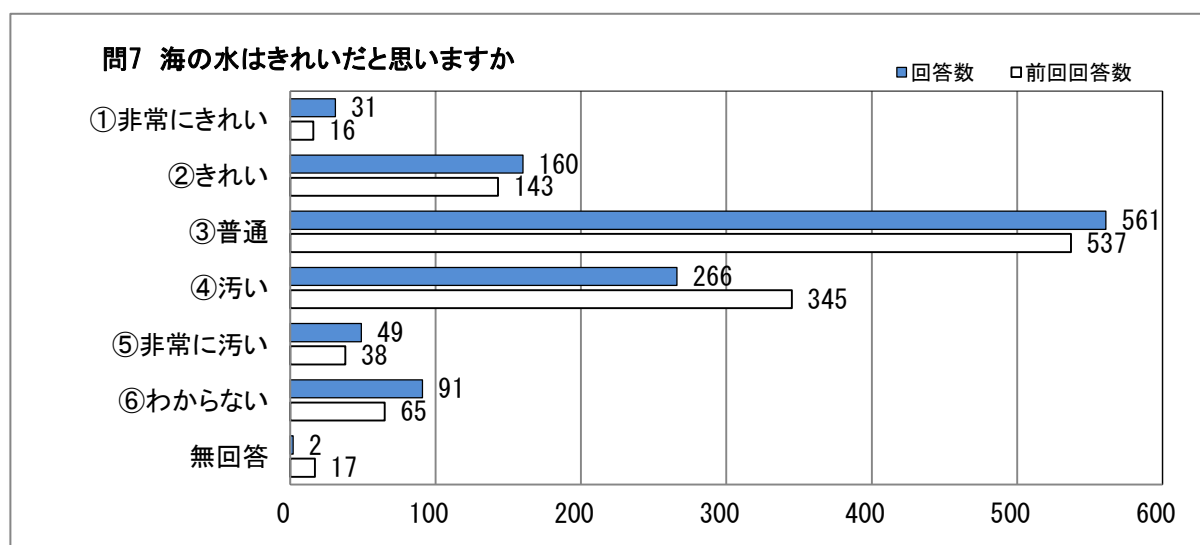
その中では排水の定期的な測定と伊万里市への報告を事業者にも義務付けており、基準を超過した場合は原因の究明と対処について報告をすることになっています。また、市でも事業所の立入調査を実施することで排水を監視しており、事業所の適正な排水処理を促進しています。

また、事業所アンケートで、水質汚濁に対する取り組みをたずねたところ136社中72社が何らかの方法で排水の管理を行っています。また、現在「なにもしていない」としている64社のうち14社が今後取り組むと回答しています。



市民の意識

市民アンケートでは、海の水に対して「非常にきれい」「きれい」と回答した人より「汚い」「非常に汚い」と回答した人が多くなっています。



(3) 静けさ

本市では、「自動車騒音」、「一般騒音」について騒音測定を実施しています。

自動車騒音については、自動車による騒音が道路周辺の住居において、どの程度影響を受けているか調査するものであり、特に自動車の交通量が多い道路で測定を実施しています。平成22年度・23年度は、環境基準を超過していますが、数値的に大幅に超過したのではなく、それ以降は概ね環境基準値以下で推移しています。

一般環境については、住居区域における生活騒音がどの程度発生しているのかを調査するものです。①栄町公民館、②中央駐車場、③魯山窯駐車場の3地点で測定を行っており、過去5年間の測定結果をみても、環境基準を超える数値も記録されています。

※等価騒音レベル

時間とともに変動する騒音について、一定期間の平均的な騒音の程度を表す指標。

■ 自動車騒音の推移

単位：dB

年度	測定場所	路線名	等価騒音レベル		環境基準	
			昼間	夜間	昼間	夜間
H22	佐賀県食糧(株)西部支店	市道 江湖の辻線	62.3	59.8	60	50
H23	九州労働金庫伊万里支店	国道 204 号線	69.7	57.2	60	50
H24	ジェネックス横	国道 202 号線	68.8	62.8	70	65
	日産自動車駐車場横	国道 204 号線	66.0	57.9	70	65
H25	名村造船所入口先	国道 204 号線	67.6	58.5	70	65
	大坪公民館前	県道 伊万里停車場線	68.2	61.7	70	65
H26	ゲオ伊万里店先	国道 204 号線	69.4	62.3	70	65
	上伊万里バス停	国道 498 号線	69.4	63.6	70	65

■ は基準と同値または超過

■ 一般騒音の推移

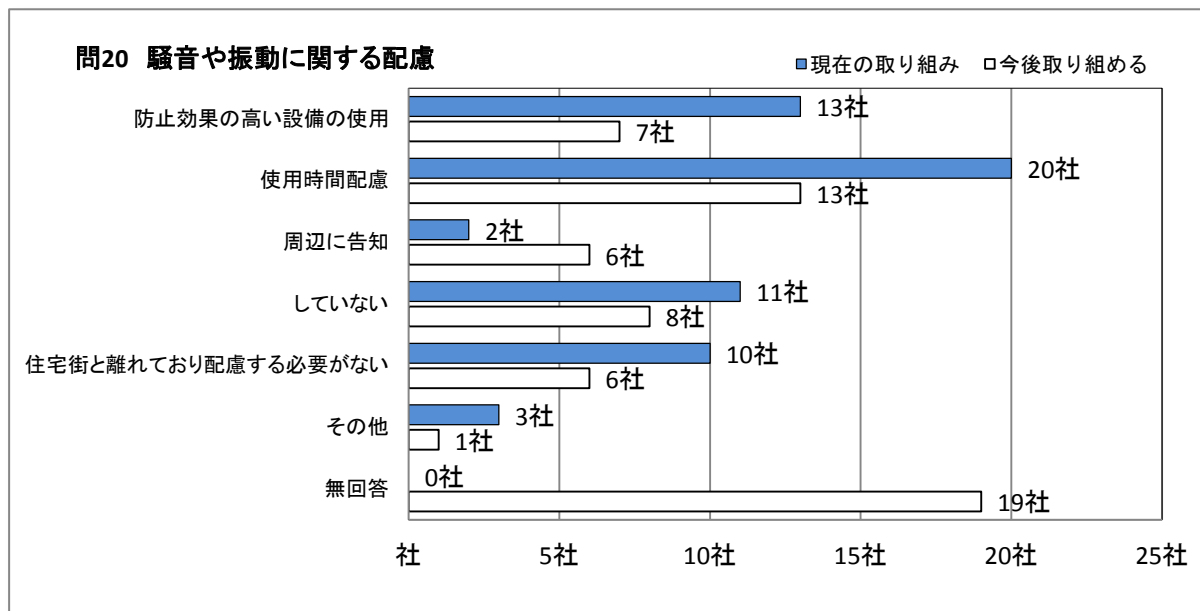
単位：dB

測定地	時間帯	H22	H23	H24	H25	H26	環境基準
栄町公民館	昼間	45.2	33.3	55.7	54.9	47.9	55
	夜間	50.2	28.3	27.0	46.8	29.0	45
中央駐車場	昼間	54.9	56.8	56.0	54.5	55.1	60
	夜間	55.9	53.5	53.1	41.9	43.4	50
魯山窯駐車場	昼間	54.7	52.5	44.1	48.1	53.9	60
	夜間	48.9	43.1	30.3	43.9	43.0	50

■ は基準と同値または超過

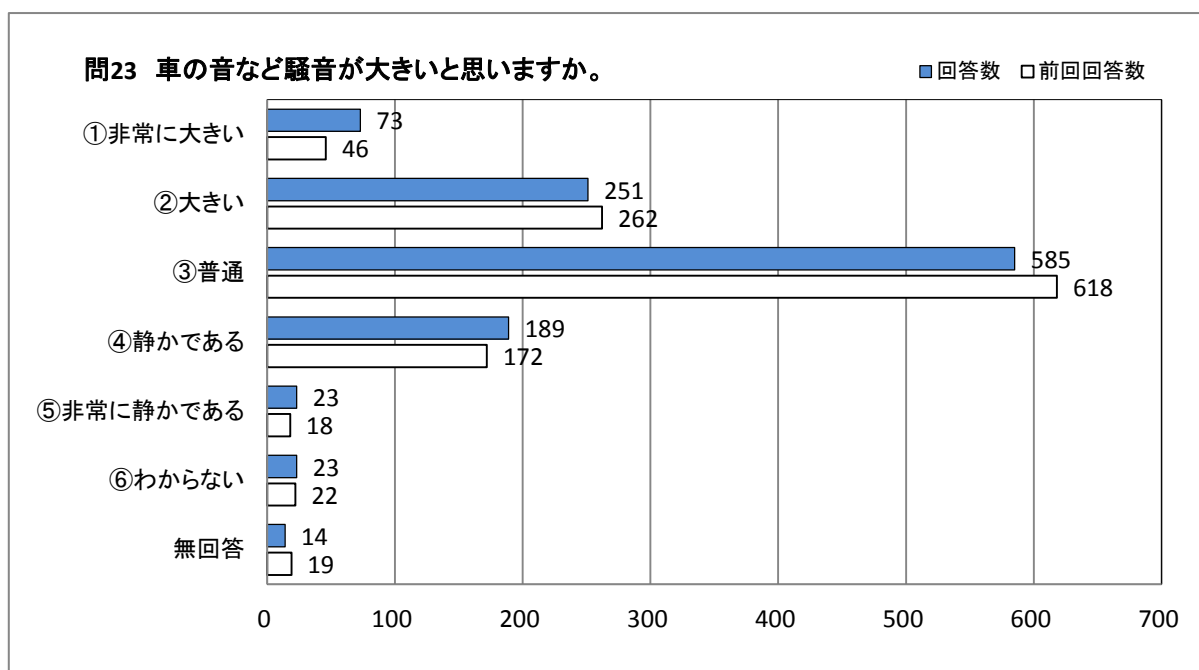
事業者の取り組み

事業者アンケートの結果、136社中59社で騒音や振動を発生する施設・機械を有しています。その対策は、使用時間の制限や機器の選定などを行うことにより対応されています。



市民の意識

市民アンケートでは車の騒音の大きさについてたずねたところ、「非常に大きい」「大きい」の回答が「静か」「非常に静か」という回答を上回っています。



(4) 臭い

臭いの苦情は、主に①製造業から発生する臭いに関するもの、②畜産業に関するもの、③し尿等生活に関するもの、④ペット及びその糞尿に関するものがありますが、現在も市に相談が継続して寄せられている状況です。悪臭防止法の指定区域内であればそれに基づく指導を行います。区域外の場合は個別に対策をとる必要があります。

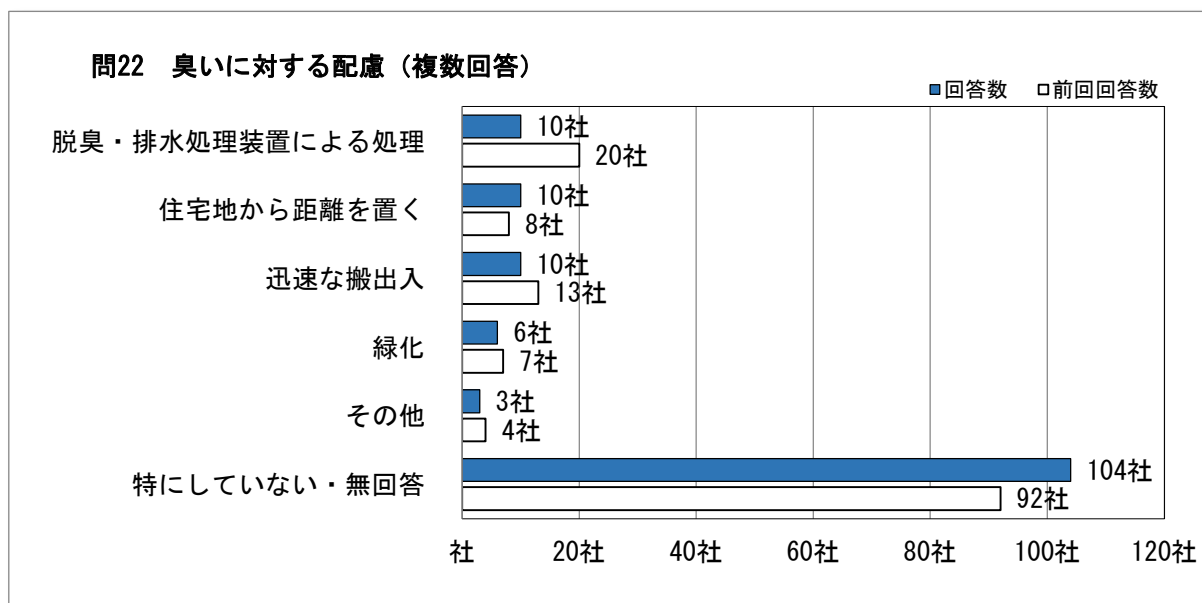
具体的な対策として、まず事業所については、排出する臭気濃度の限度や悪臭防止設備の適正な維持管理などについて定めた環境保全協定を個別に締結し、それに基づいた指導を行っています。

畜産業については、糞尿の処理などについて環境担当課と農業担当課の連携により指導を継続的におこなっていますが、施設の老朽化などから問題が長引くケースも見られます。し尿等生活に関するものやペットに関するものについては、特段の基準がない場合が多く、その都度協力をお願いしています。

臭いの問題は周辺住民の生活環境に過度なストレスを与える可能性があるため、継続して対応を行っていく必要があります。

事業者の取り組み

事業所アンケートでは、136社中27社が作業工程中に臭いが発生すると回答していますが、対策は主として脱臭の機械・設備によるものとなっています。



(5) 土壌

土壌汚染とは、重金属等の有害物質が土壌に蓄積することで、長期間にわたり農作物や地下水などに悪影響を与えます。その原因としては、工場などの操業に伴って有害な物質を不適切に取り扱ってしまったり、有害な物質を含む液体を地下にしみ込ませてしまったりすることなどが考えられます。

この対策としては、平成14年5月に公布された土壌汚染対策法に基づく県の調査が行われています。また平成22年4月には同法が改正され、一定規模の土地開発時の土壌調査が義務化されるなど、全国的により詳しい調査が行われるようになってきています。

この中で県知事は、有害物質で汚染されている区域を指定することになっていますが、佐賀県内では鳥栖市で一部指定されている区域がある状況となっており、本市には指定地域はありません。

また、県は平成12年度から土壌中のダイオキシン濃度について測定していますが、現在のところ良好な数値を示しています。

■ 土壌中ダイオキシン濃度

単位：pg-TEQ/g

年度	測定場所	測定値	環境基準
H22	-	-	1,000
H23	-	-	
H24	南波多小学校	0.003	
H25	-	-	
H26	伊万里小学校	0.15	

2. 市民・事業所アンケート

日常生活における環境への意識を把握することを目的に、今回も前回と同様のアンケートを実施しました。

(1) 市民アンケート

市民アンケートでは、前回と同様に「伊万里市の自然環境について」「伊万里市のくらしやすさについて」「関心のある環境問題について」、「望ましい伊万里市の環境の将来像」、「環境保全の取り組みについて」、「廃棄物・リサイクルについて」の6項目について質問を行い、10年前と意識がどう変わったかを比較できるよう、両方の結果を表示しています。

また、それとは別に自然環境や生活環境、まちなみ環境、地球環境などの各項目に対し、「10年前と比べてどうお考えですか」という質問を新たに設定し、市民がそれぞれの問題に対してどうお感じになっているかを調査しました。

アンケートの実施状況は以下のとおりです。

①実施期間	平成27年9月3日～10月20日
②配布数	2,070人【年代別(10代～70代以上)・地区別(13地区)に無作為抽出】
③回答数	1,160人【回答率56.0%】

(2) 事業所アンケート

事業所アンケートについても前計画と同様に「伊万里市の自然について」、「環境負荷について」、「資源の利用と消費について」、「市民生活の快適性」、「環境に関する考え方」として、前計画の結果と比較できるようにしております。

アンケートの実施状況は以下のとおりです。

①実施期間	平成27年9月3日～10月20日
②配布数	220社【無作為抽出】
③回答数	136社【回答率61.8%】

※前回のアンケートとの比較方法について

前回の回答数(1,461人)と今回の回答数(1,160人)が異なるため、各設問はそのままでは比較ができません。よって、前回のアンケートの結果は、回答数が今回と同じになるよう前回回答数を均等に割り戻して表示し、割合の変化を比較できるようにしています。

市民アンケート集計結果 回答数 1,160人

1. 基本的事項について

問1 性別

回答	①男性	②女性	無回答	計
回答数	515	644	1	1,160

問2 年齢

回答	①10代	②20代	③30代	④40代	⑤50代	⑥60代	⑦70代以上	無回答	計
回答数	464	82	84	113	135	135	145	2	1,160

問3 住所地

回答	①伊万里地区	②牧島地区	③大坪地区	④立花地区	⑤大川内町	⑥黒川町	⑦波多津町	⑧波多津町	⑨大川町
回答数	221	37	163	140	51	41	35	53	51

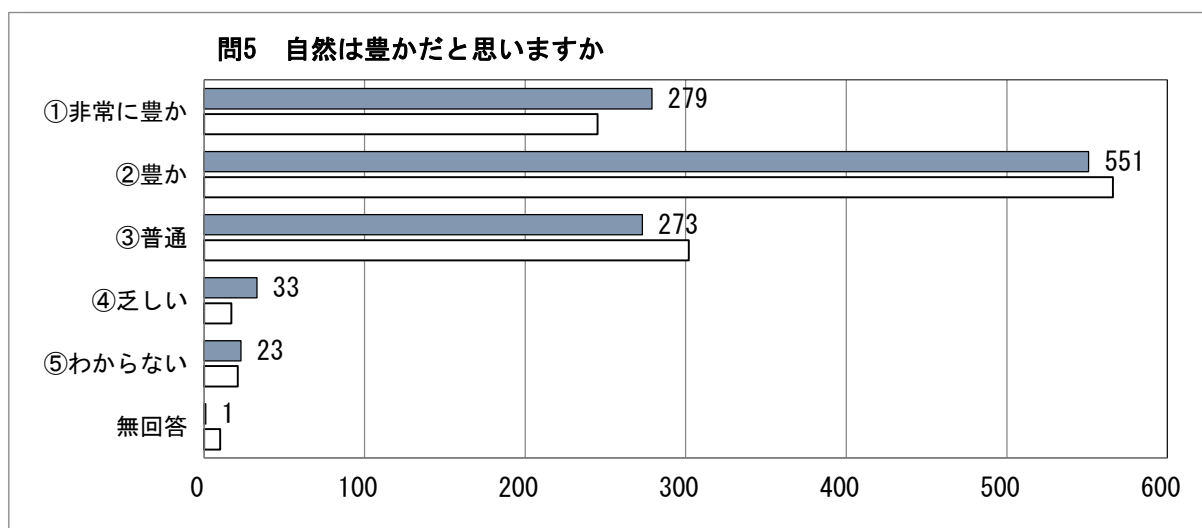
回答	⑩松浦町	⑪二里町	⑫東山代町	⑬山代町	無回答	計
回答数	46	117	113	91	1	1,160

問4 職業

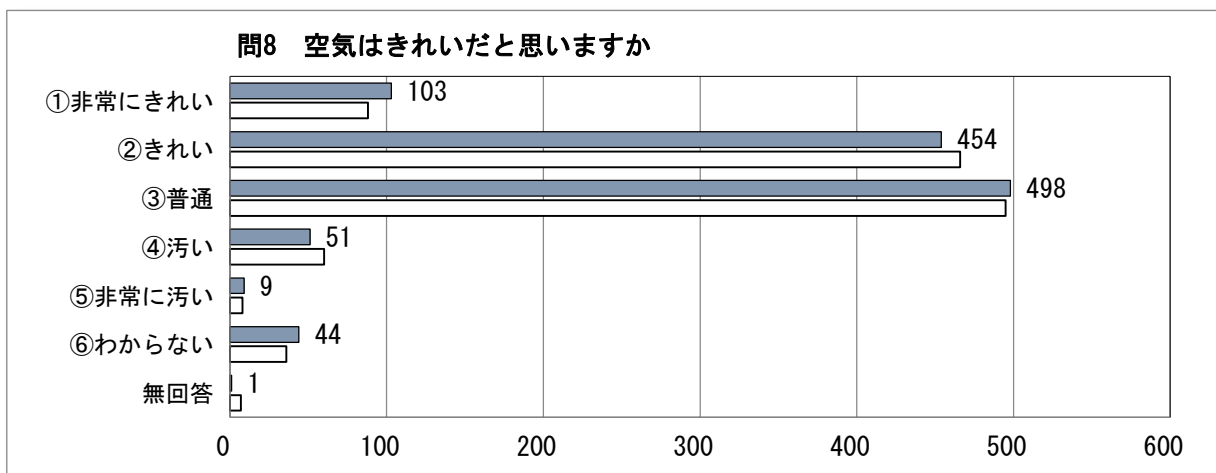
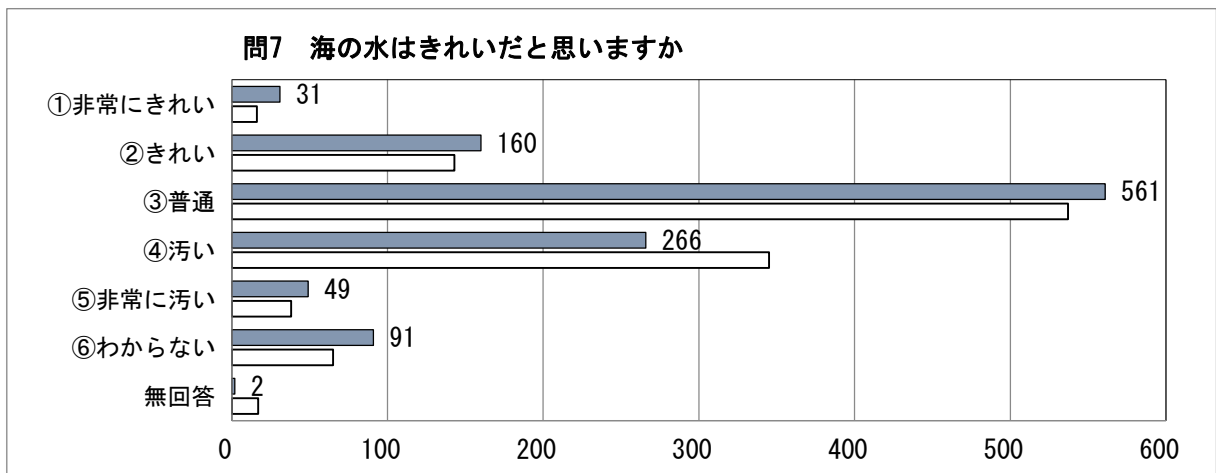
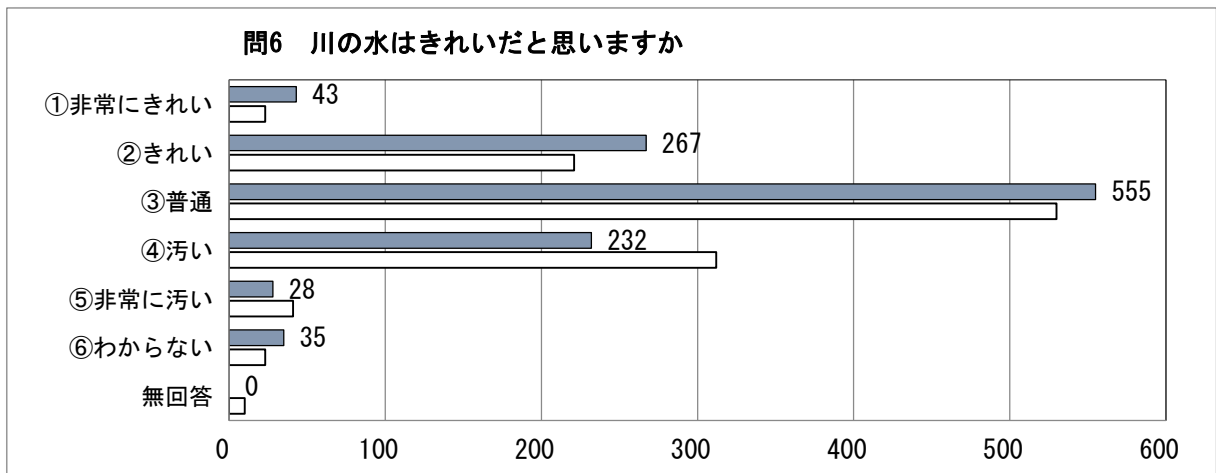
回答	①自営	②会社員	③公務員	④団体職員	⑤主婦	⑥学生	⑦無職	⑧その他	無回答	計
回答数	80	225	48	15	116	470	137	65	4	1,160

2. 伊万里市の自然環境について

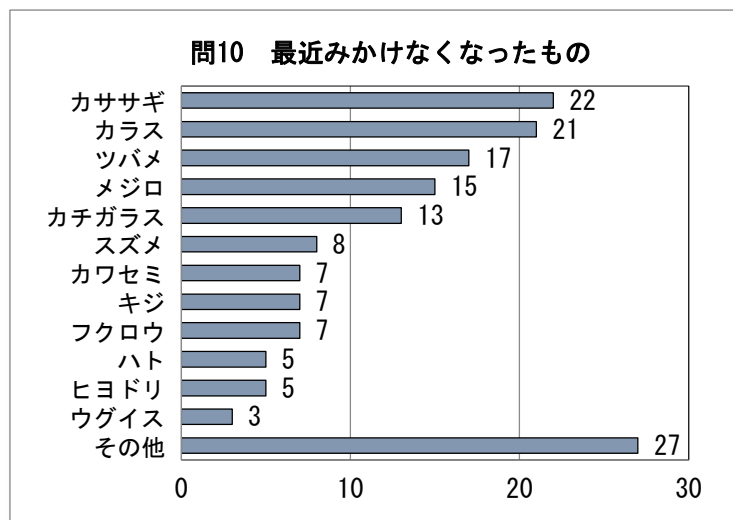
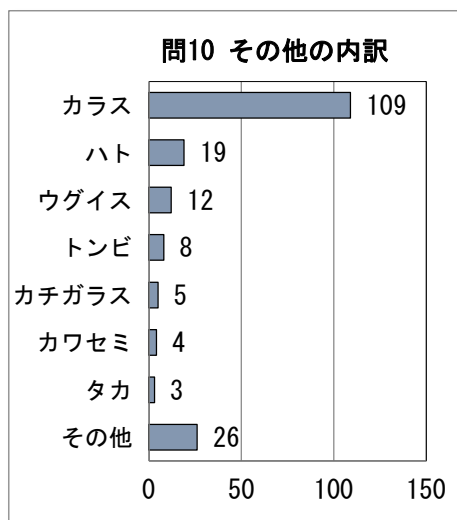
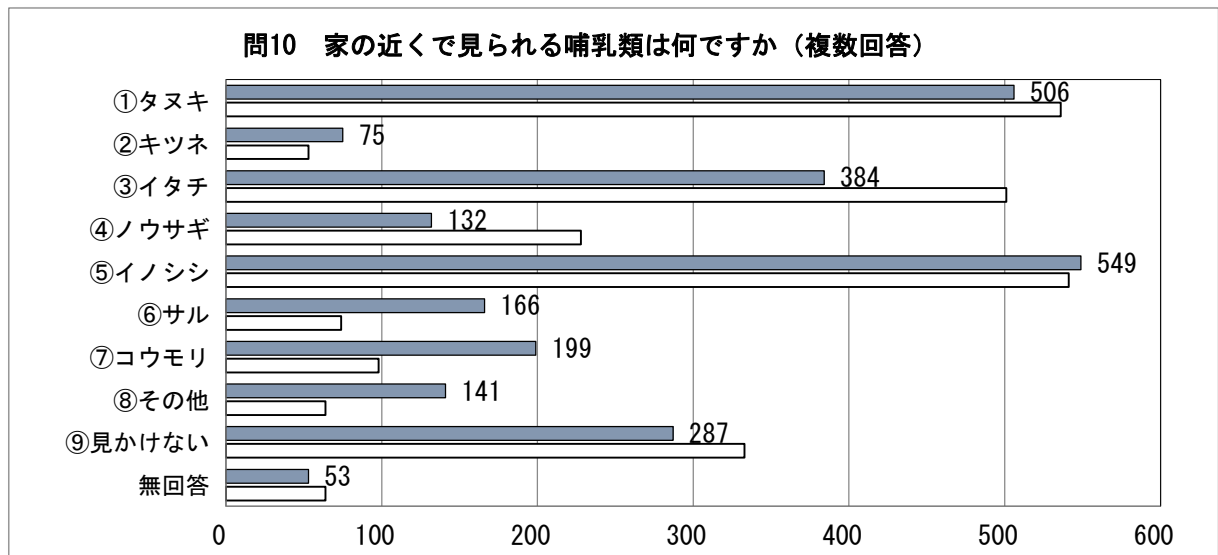
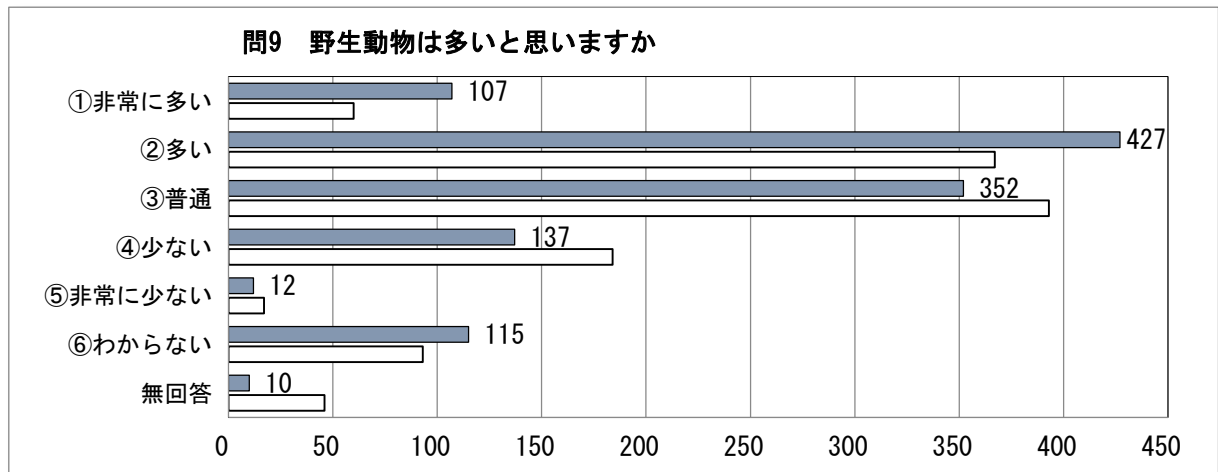
■回答数 □前回回答数



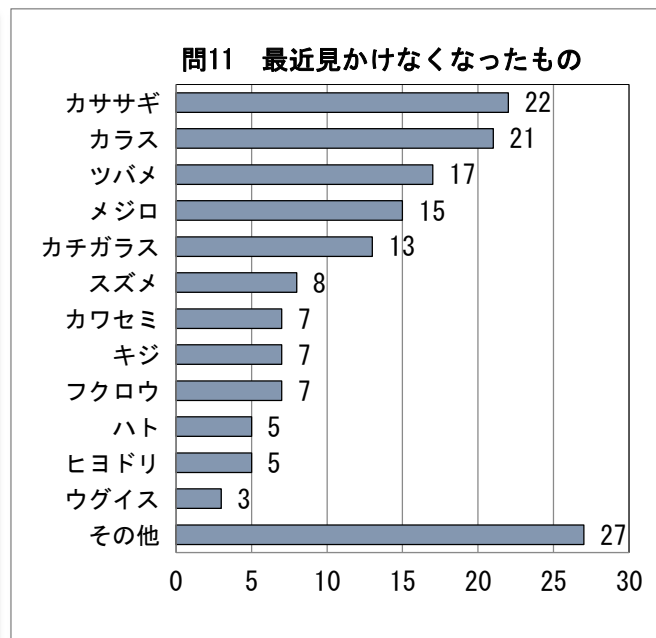
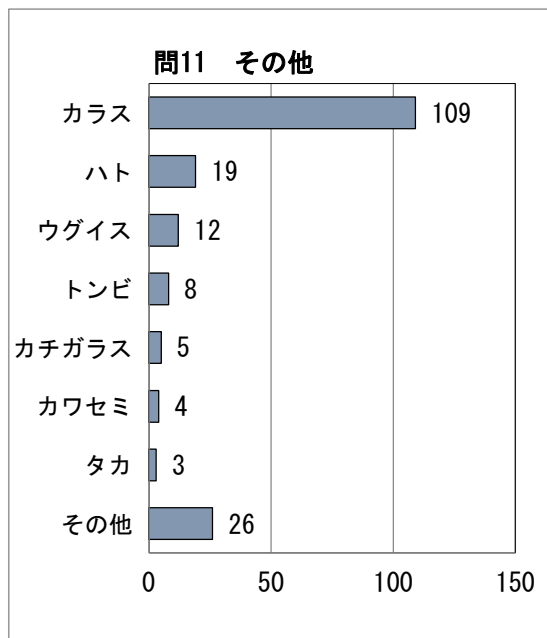
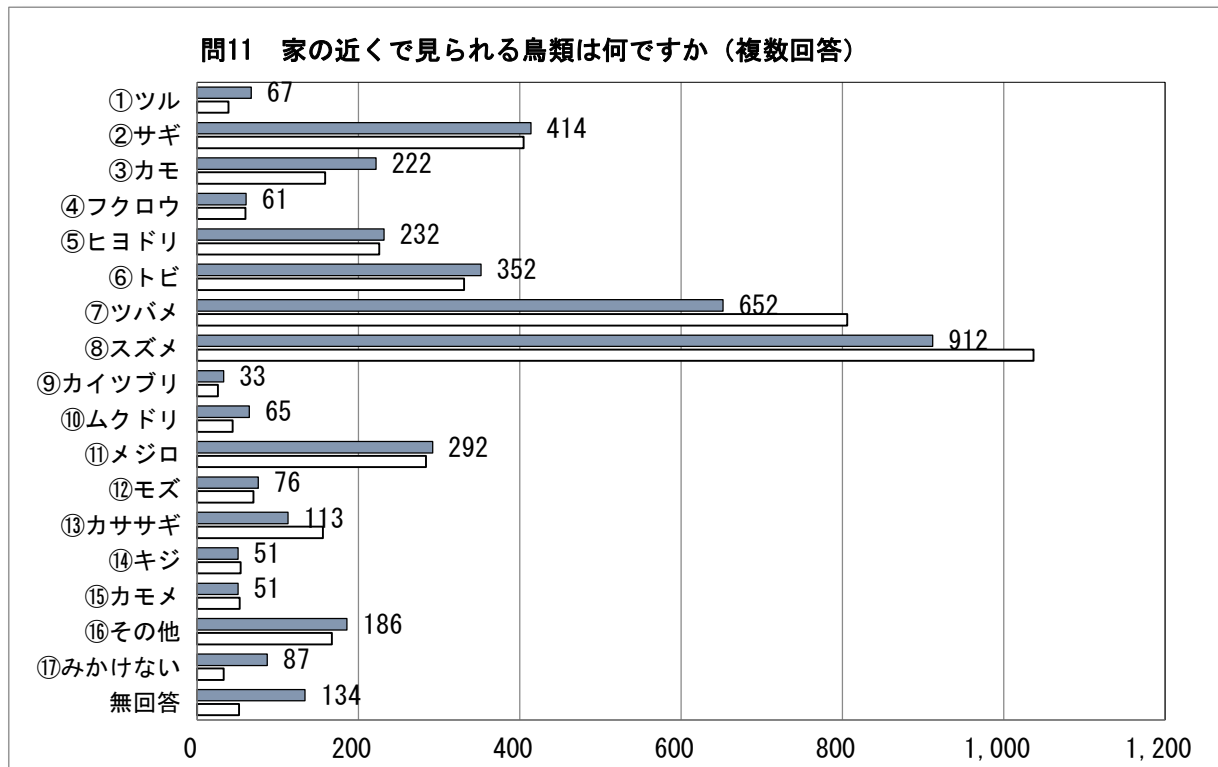
■ 回答数 □ 前回回答数



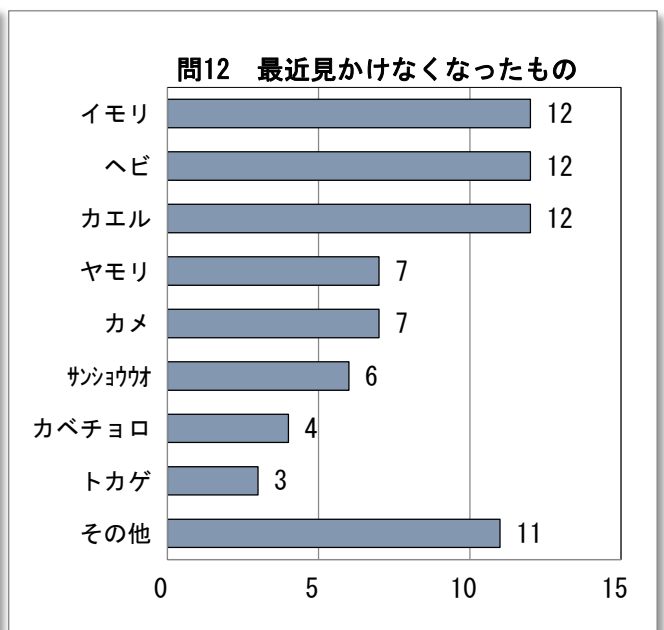
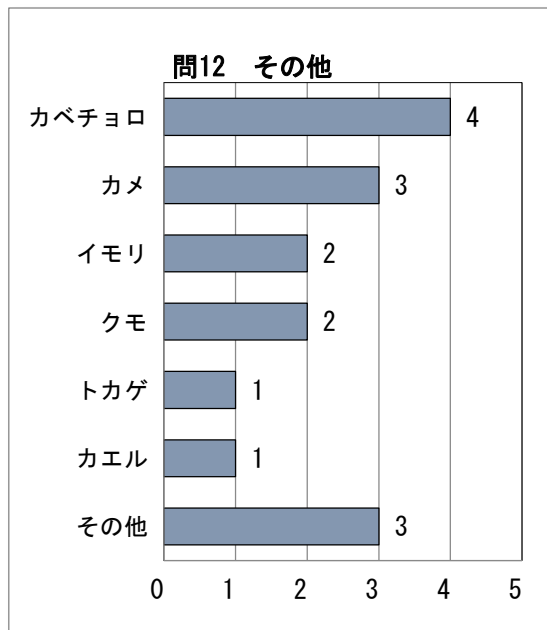
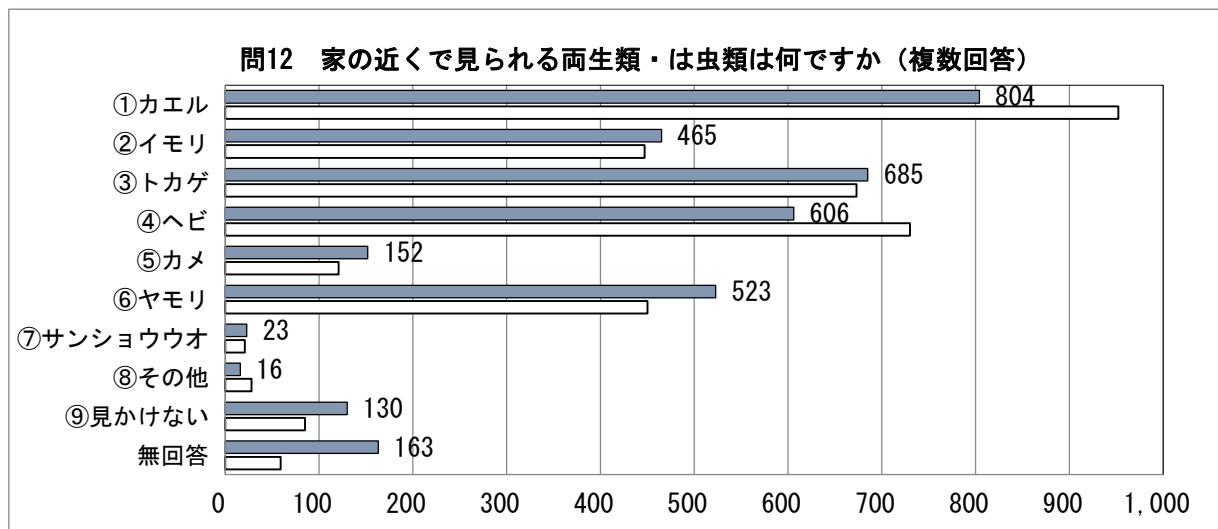
■ 回答数 □ 前回回答数



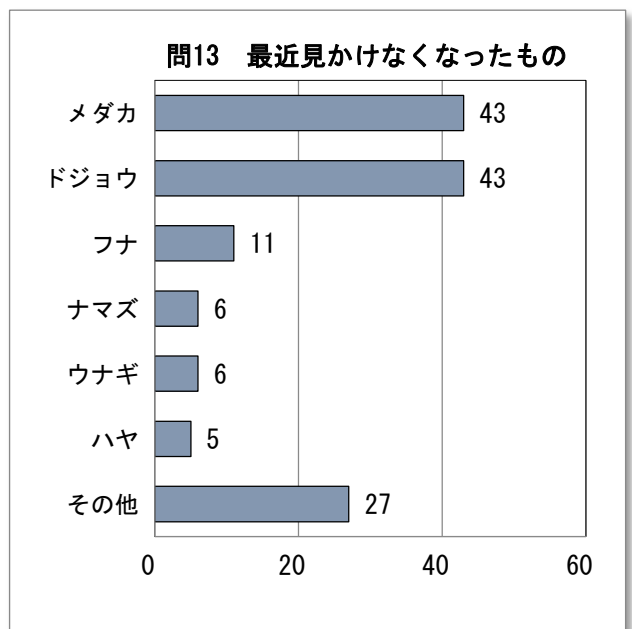
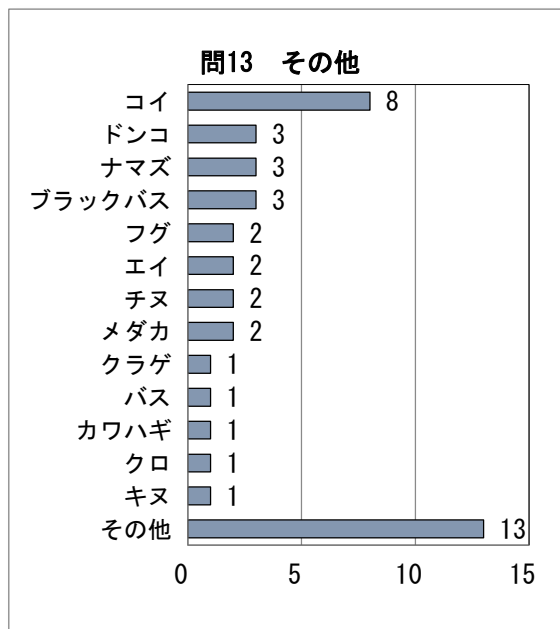
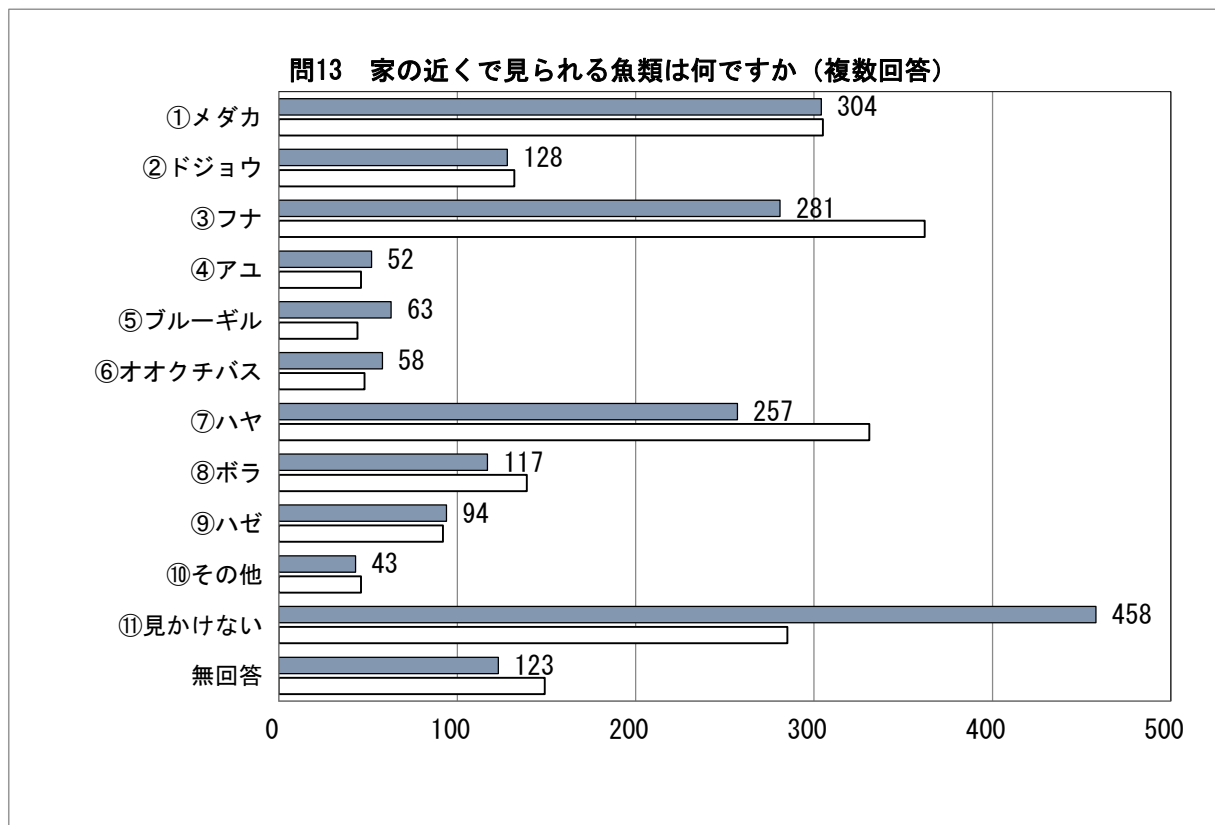
■ 回答数 □ 前回回答数



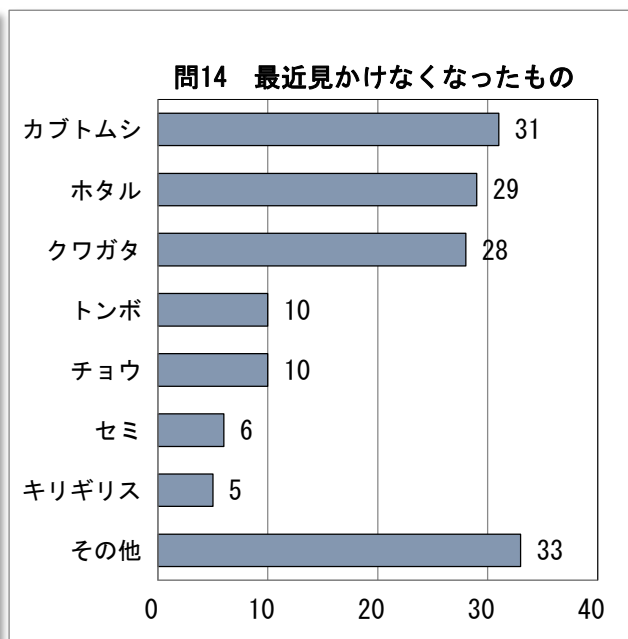
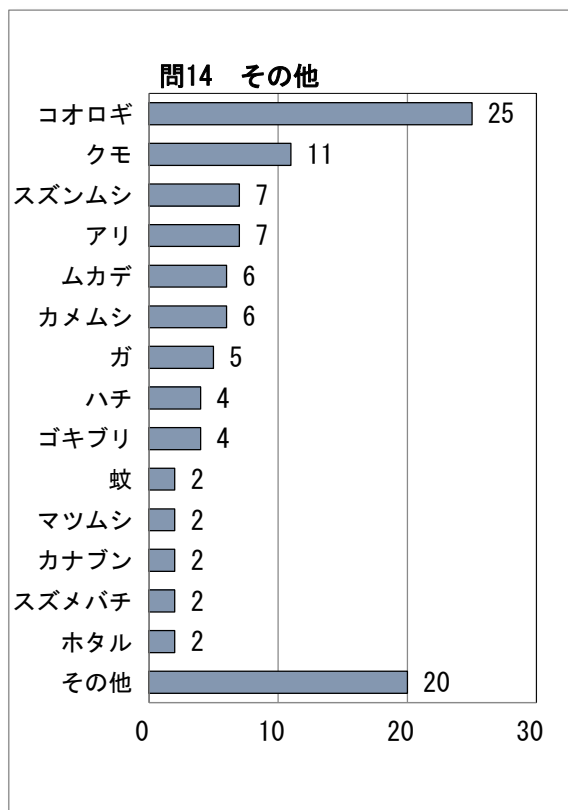
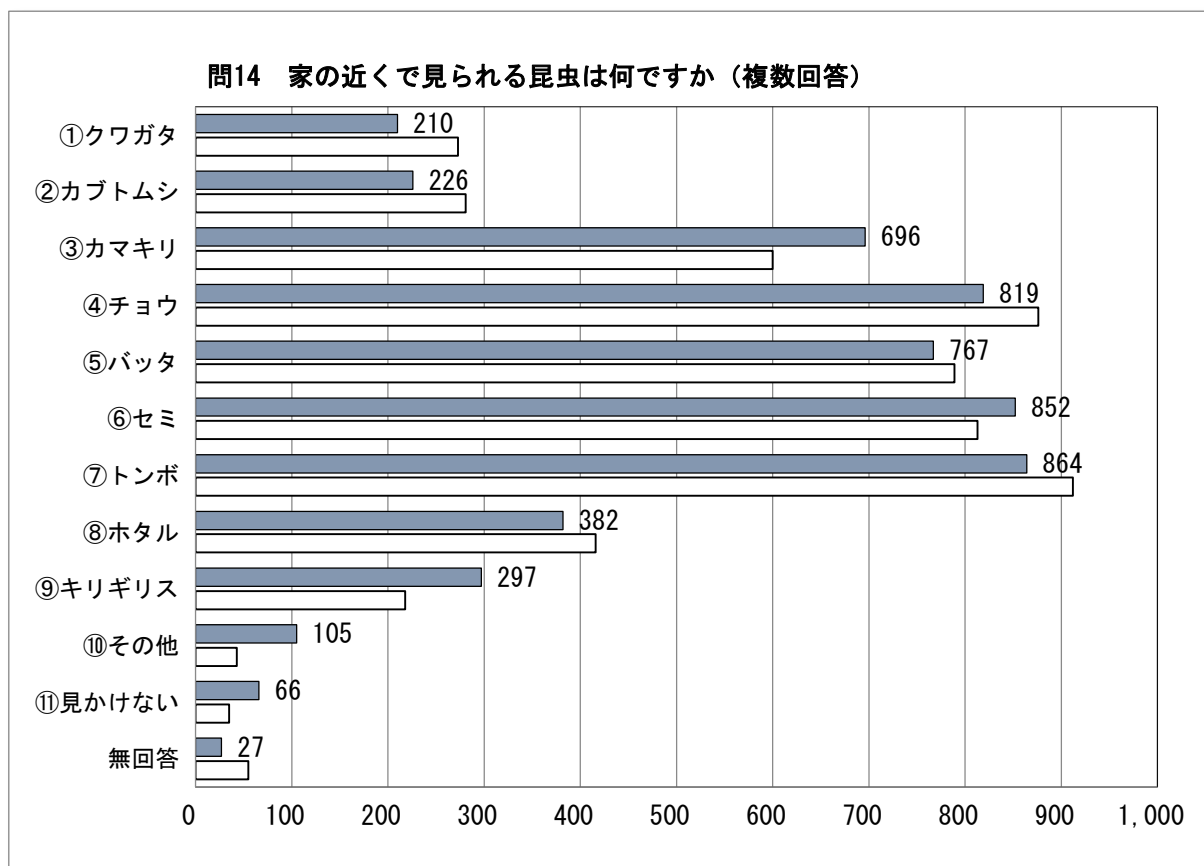
■ 回答数 □ 前回回答数



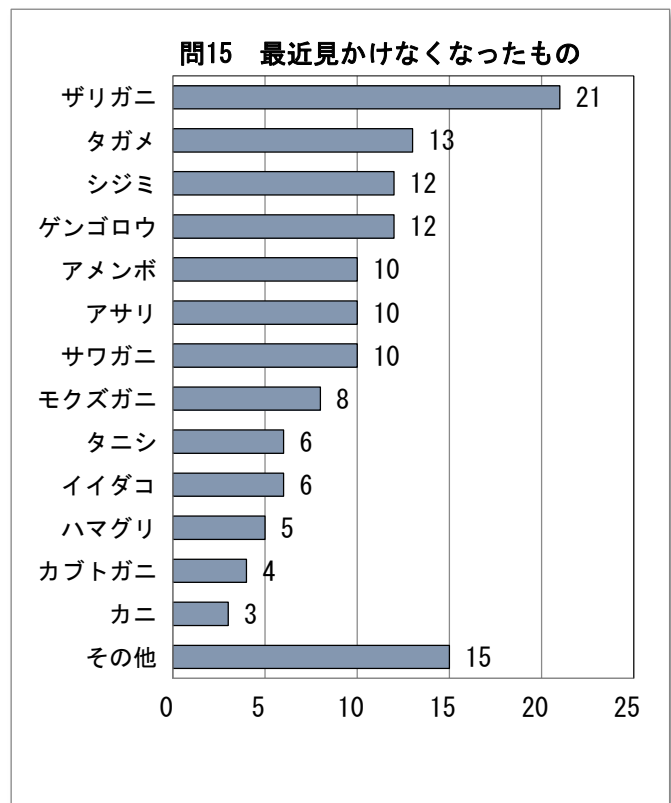
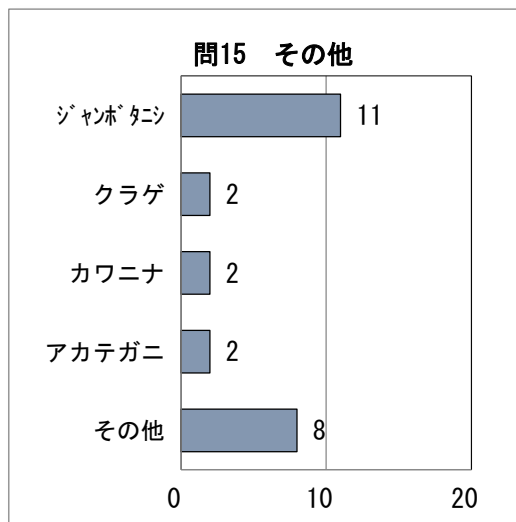
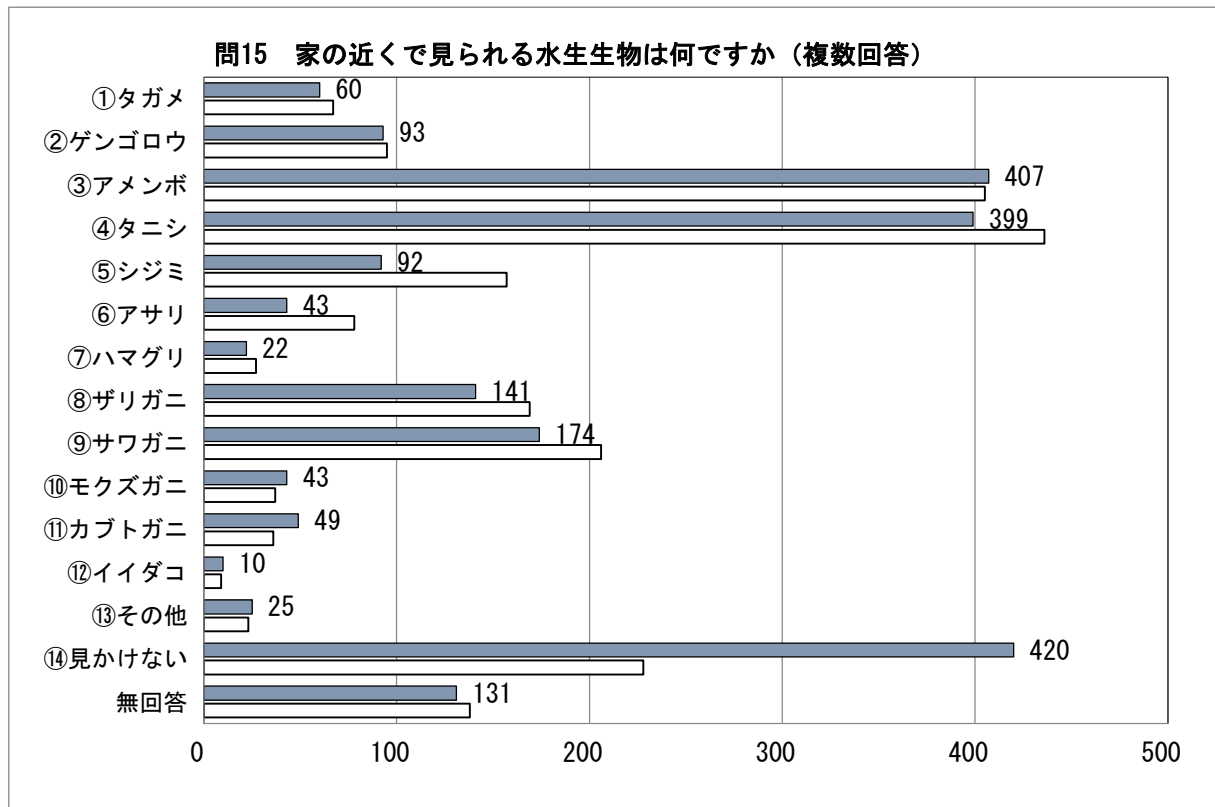
■ 回答数 □ 前回回答数



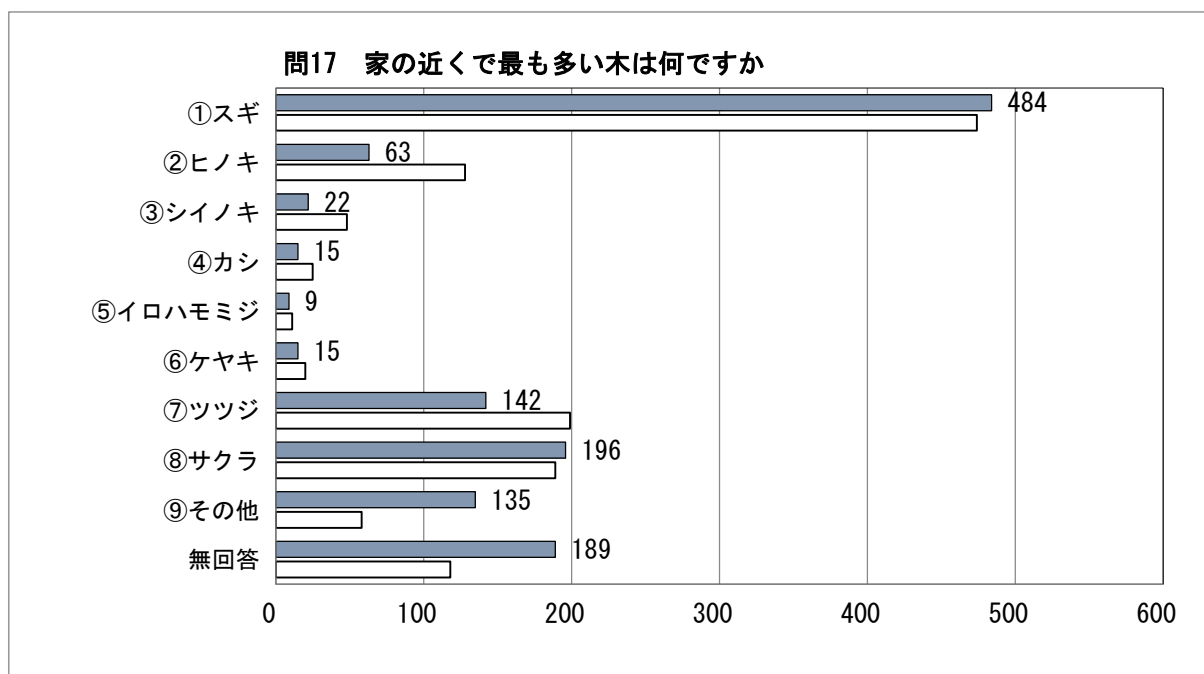
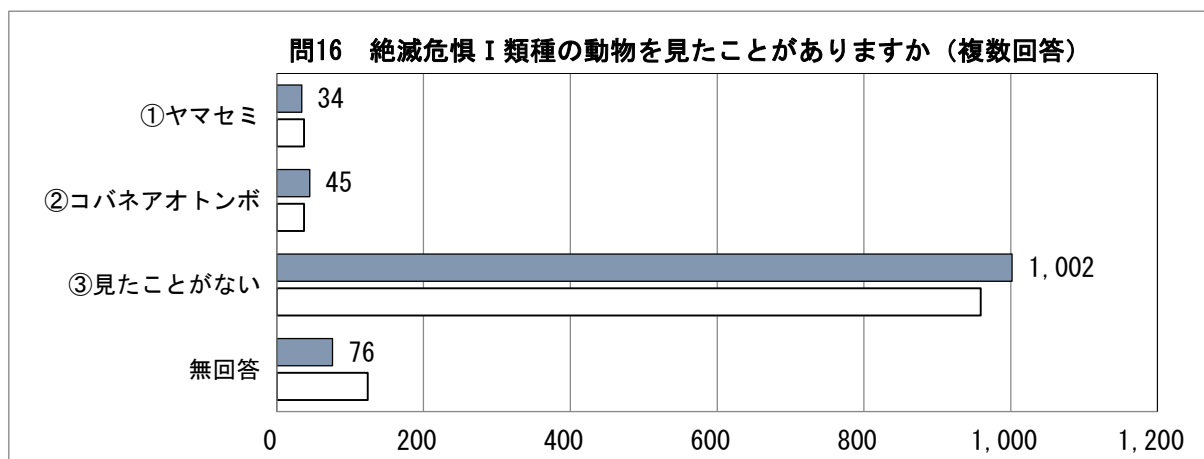
■ 回答数 □ 前回回答数



■ 回答数 □ 前回回答数



■ 回答数 □ 前回回答数



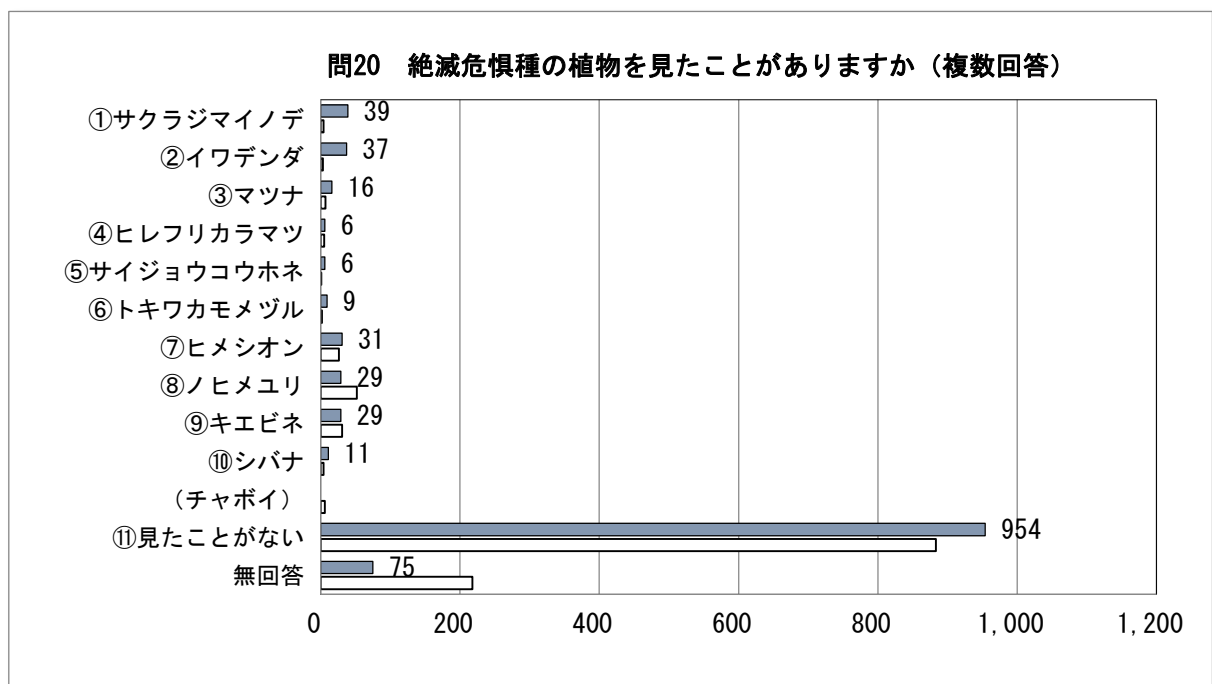
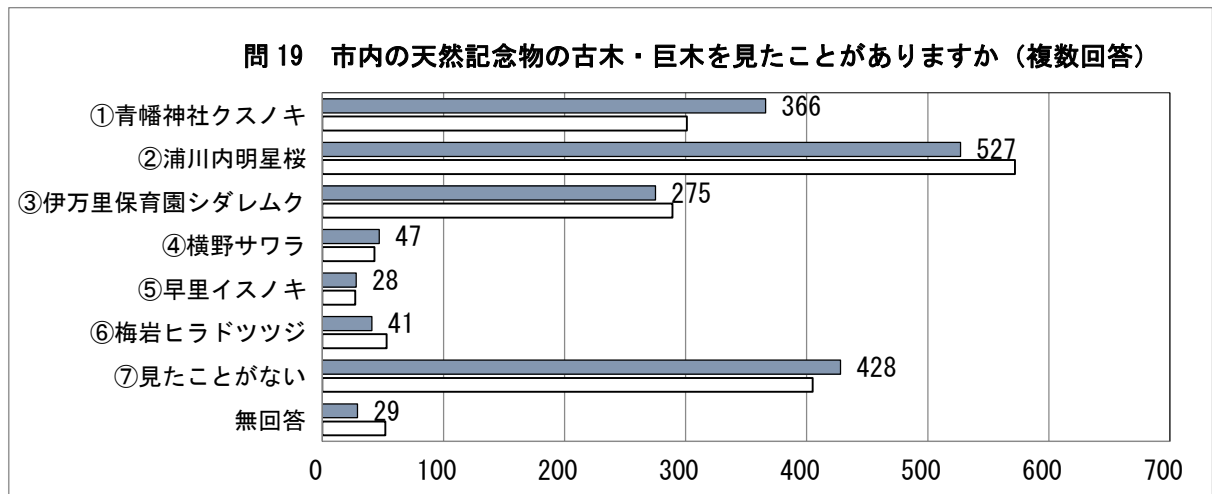
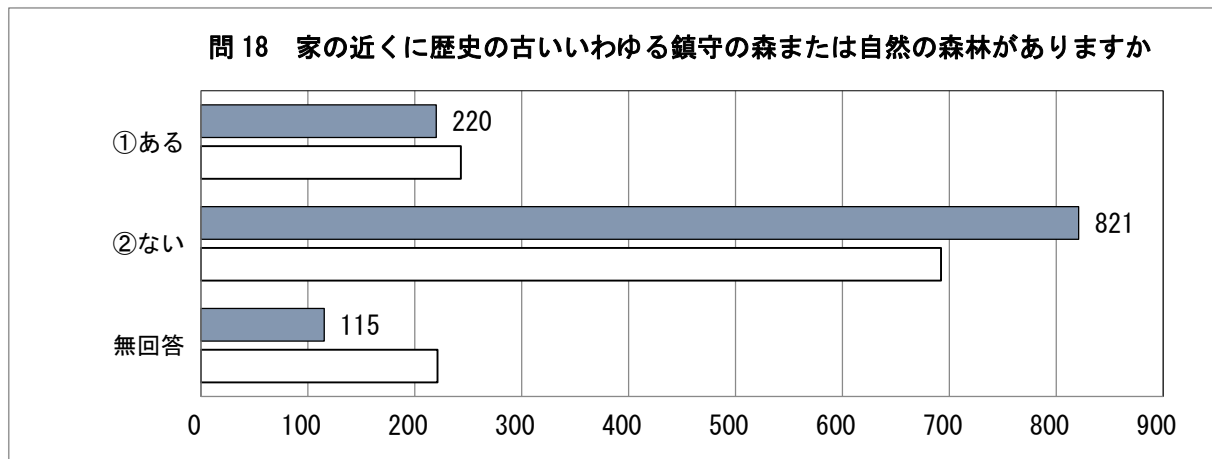
○その他の内訳

回答	ヒノキ	サクラ	ツツジ	竹	シイノキ	スギ	イチョウ	カシ	マツ
回答数	22	18	16	12	10	8	6	5	4

回答	キンモクセイ	ウメ	マキ	栗	イロハモミジ	柿木	ケヤキ	サツキ	ラベンダー
回答数	4	4	3	3	3	2	1	1	1

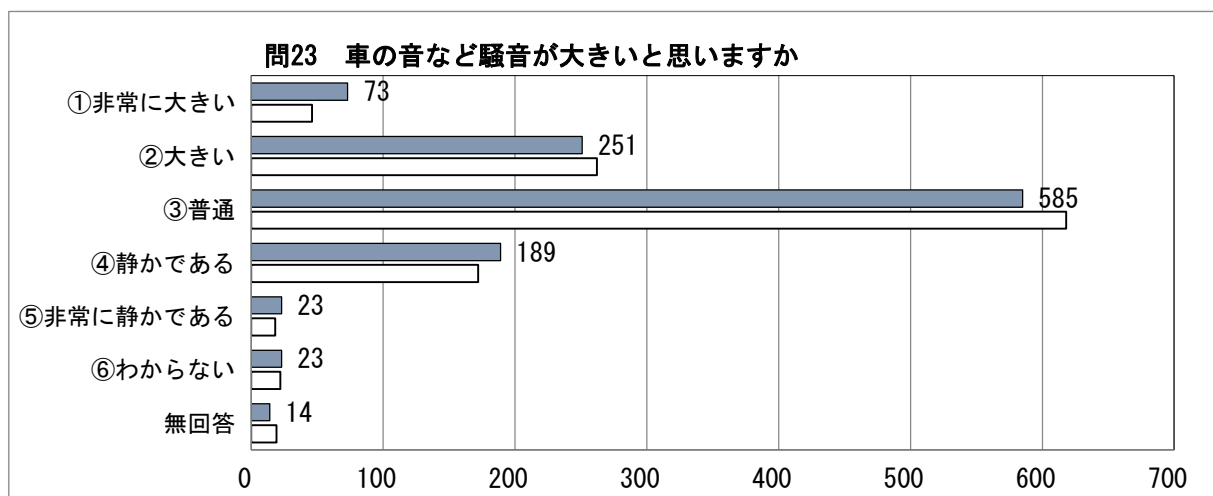
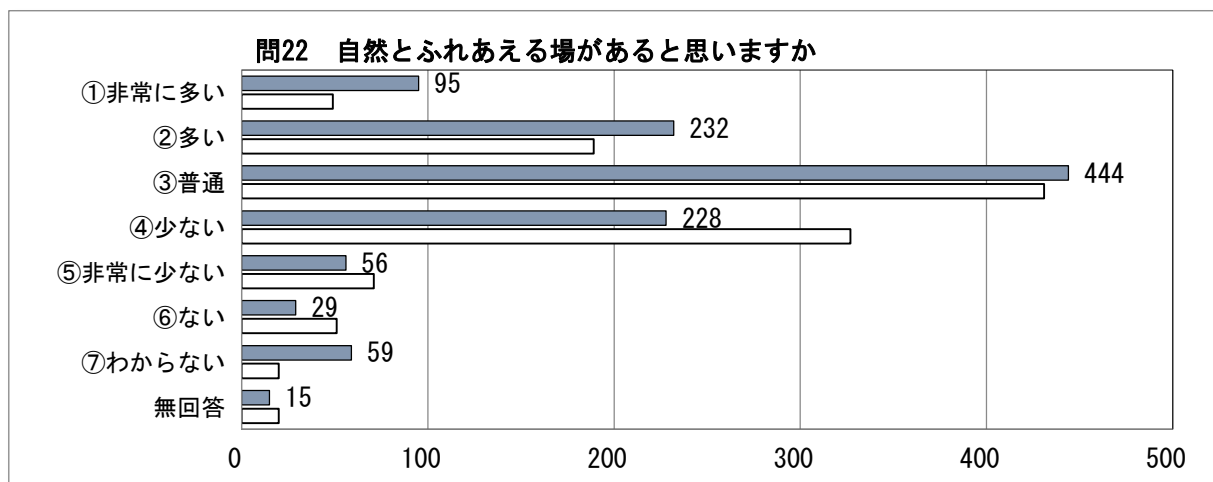
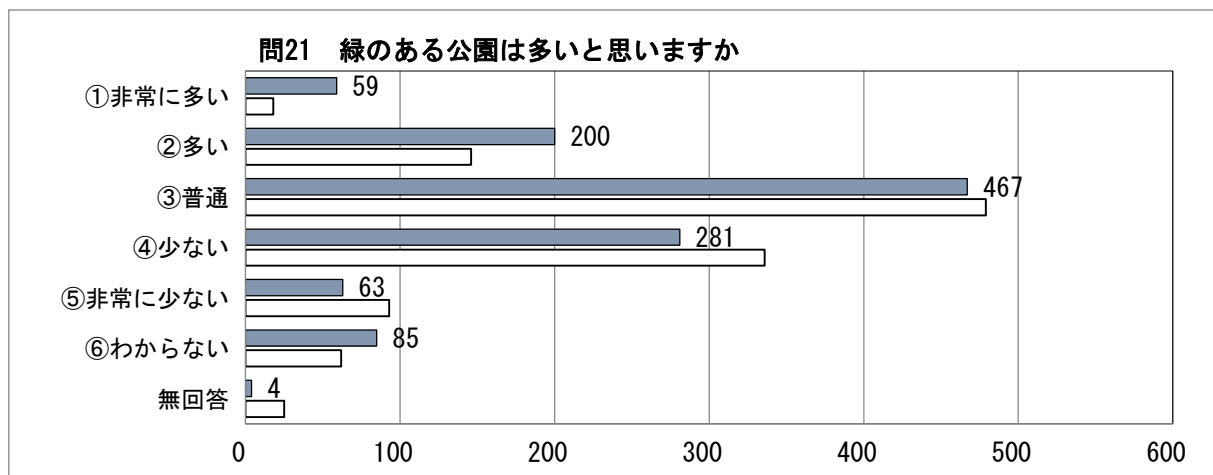
回答	梨	サザンカ	クワ	ムク	ナンキンハゼ	その他	計
回答数	1	1	1	1	1	7	135

■ 回答数 □ 前回回答数

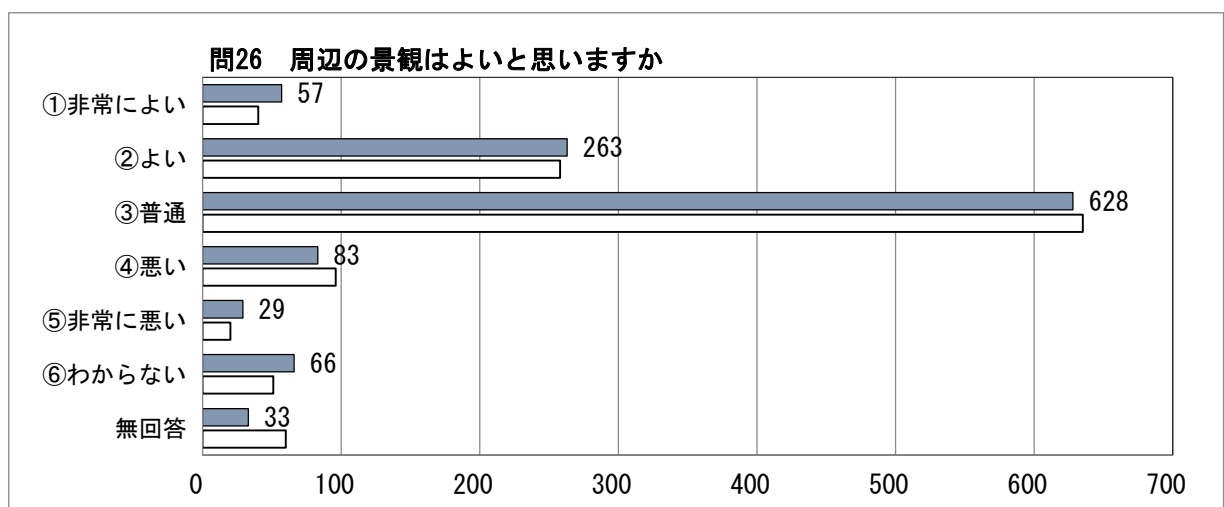
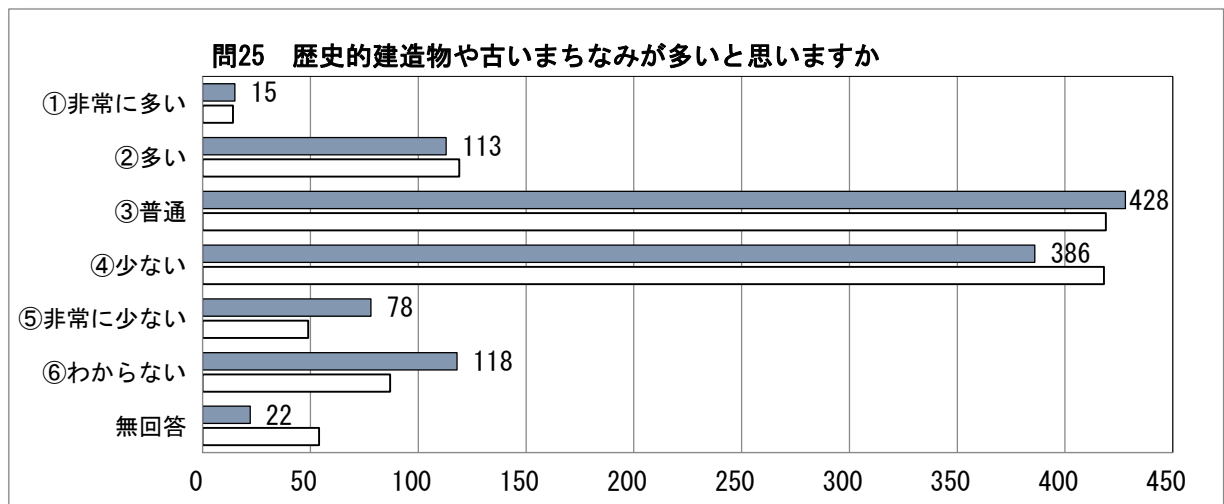
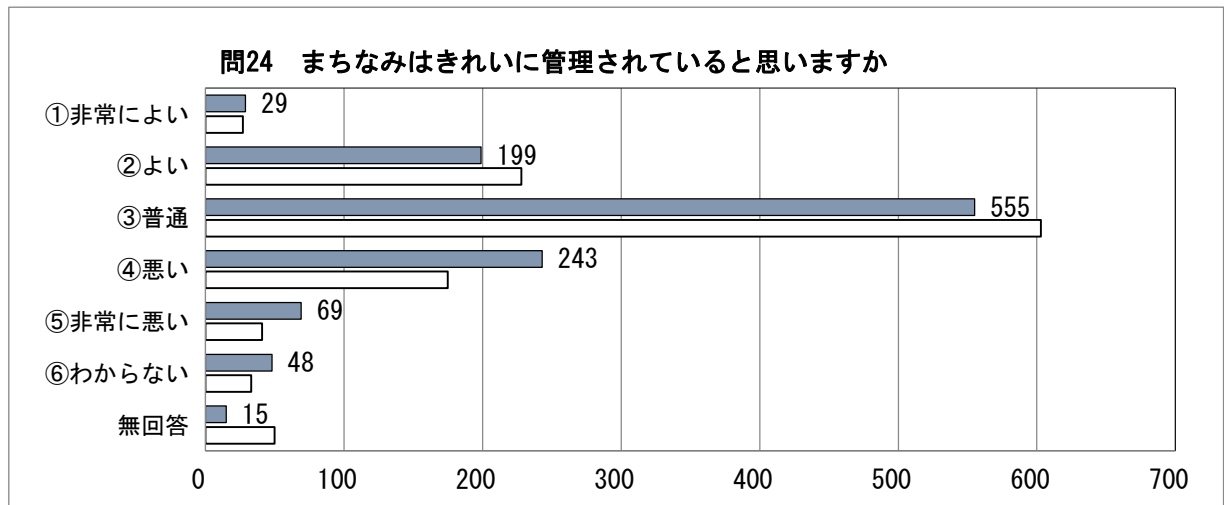


3. 伊万里市のくらしやすさについて

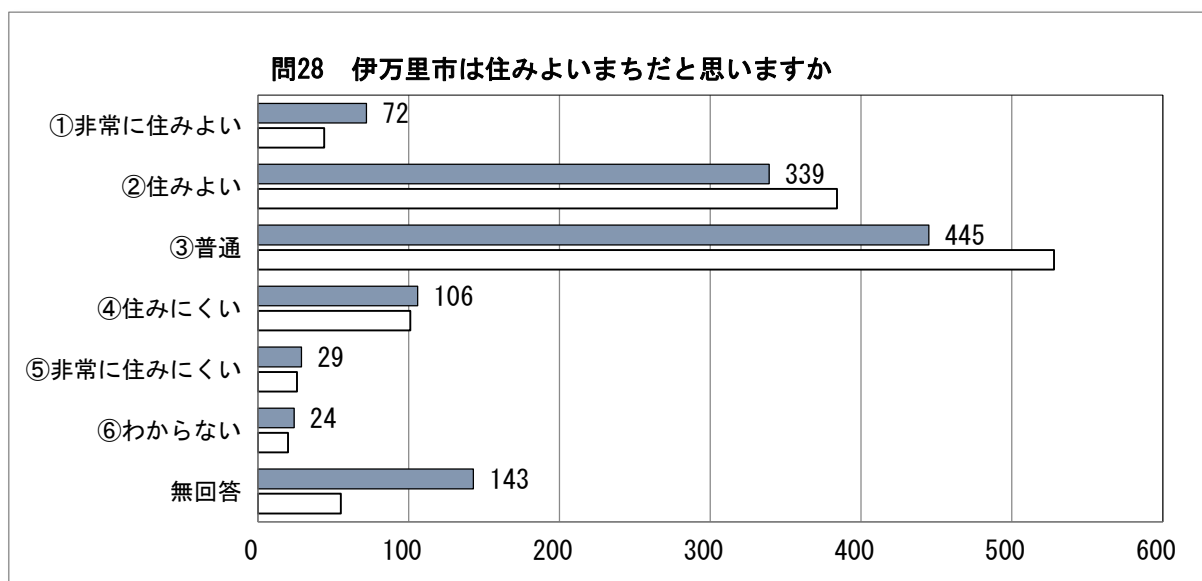
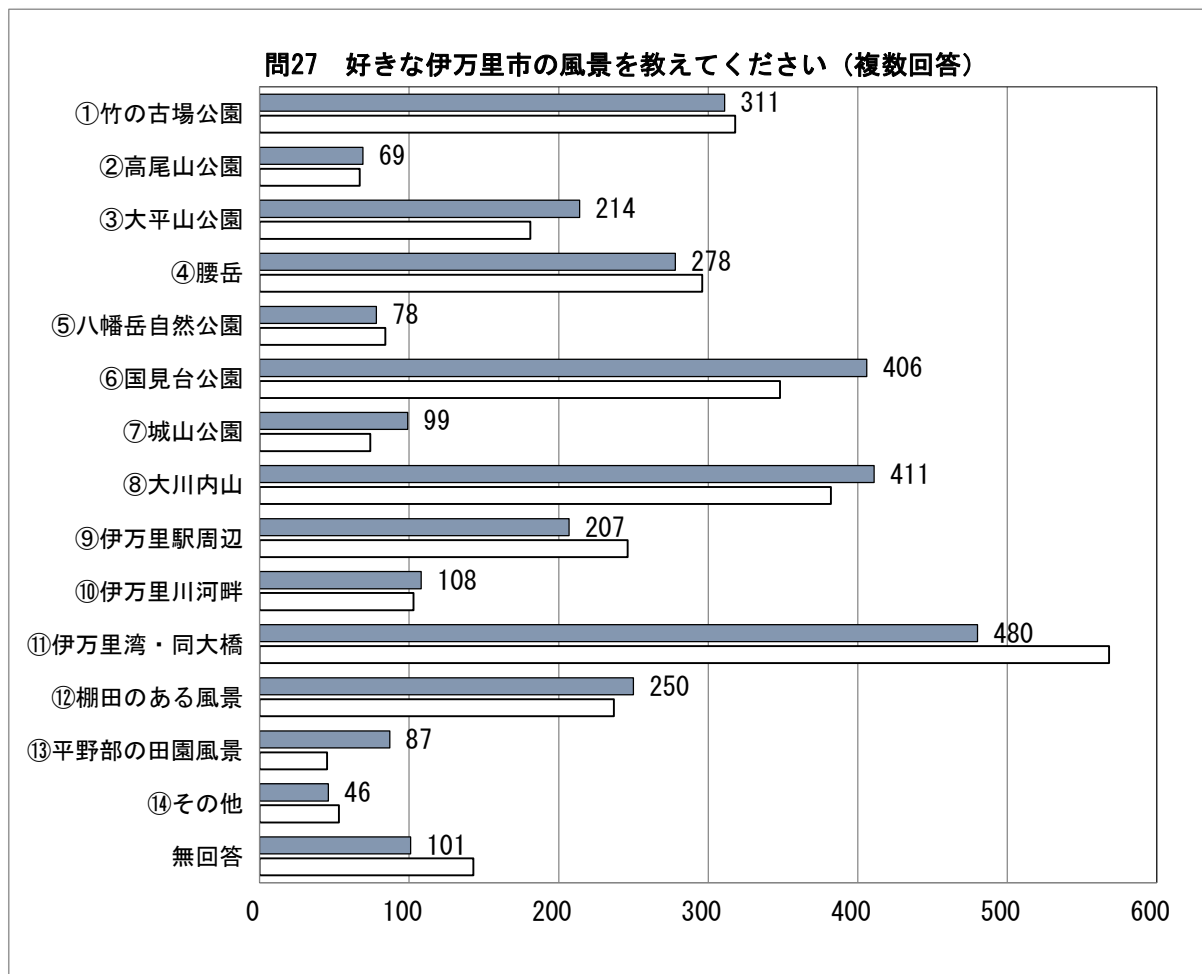
■ 回答数 □ 前回回答数



■ 回答数 □ 前回回答数

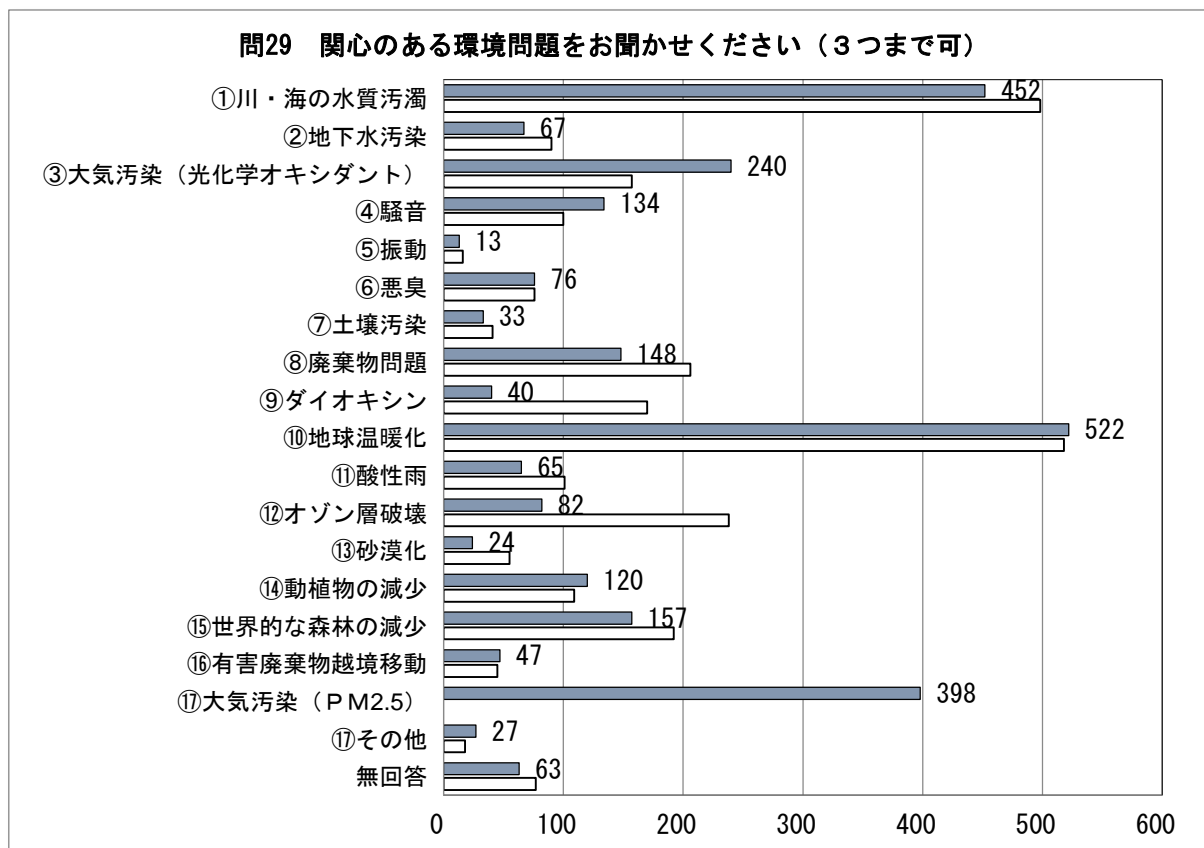


■ 回答数 □ 前回回答数

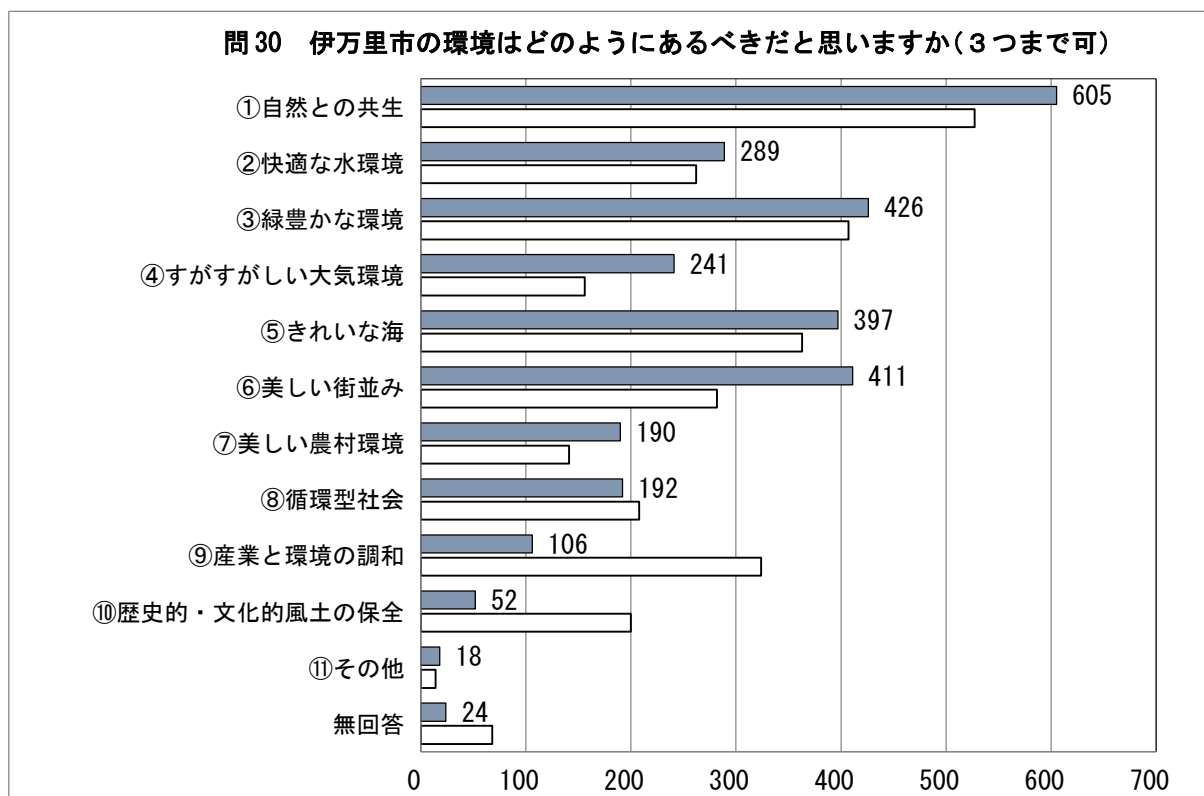


4. 関心のある環境問題について

■ 回答数 □ 前回回答数

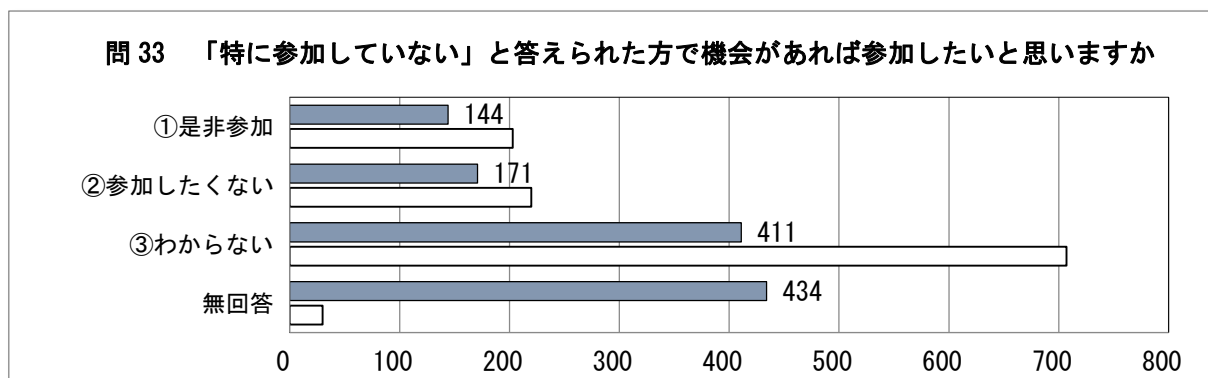
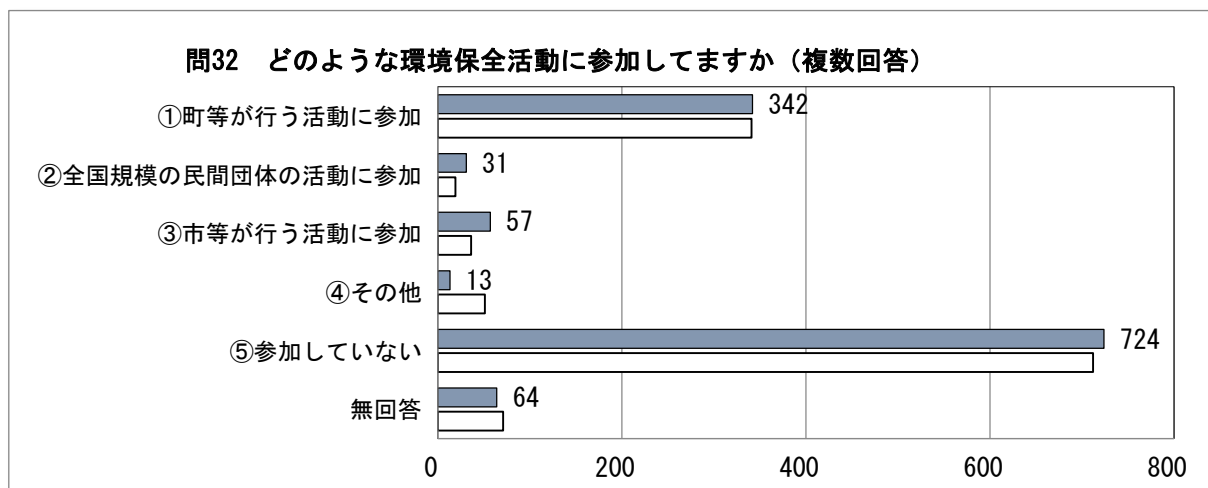
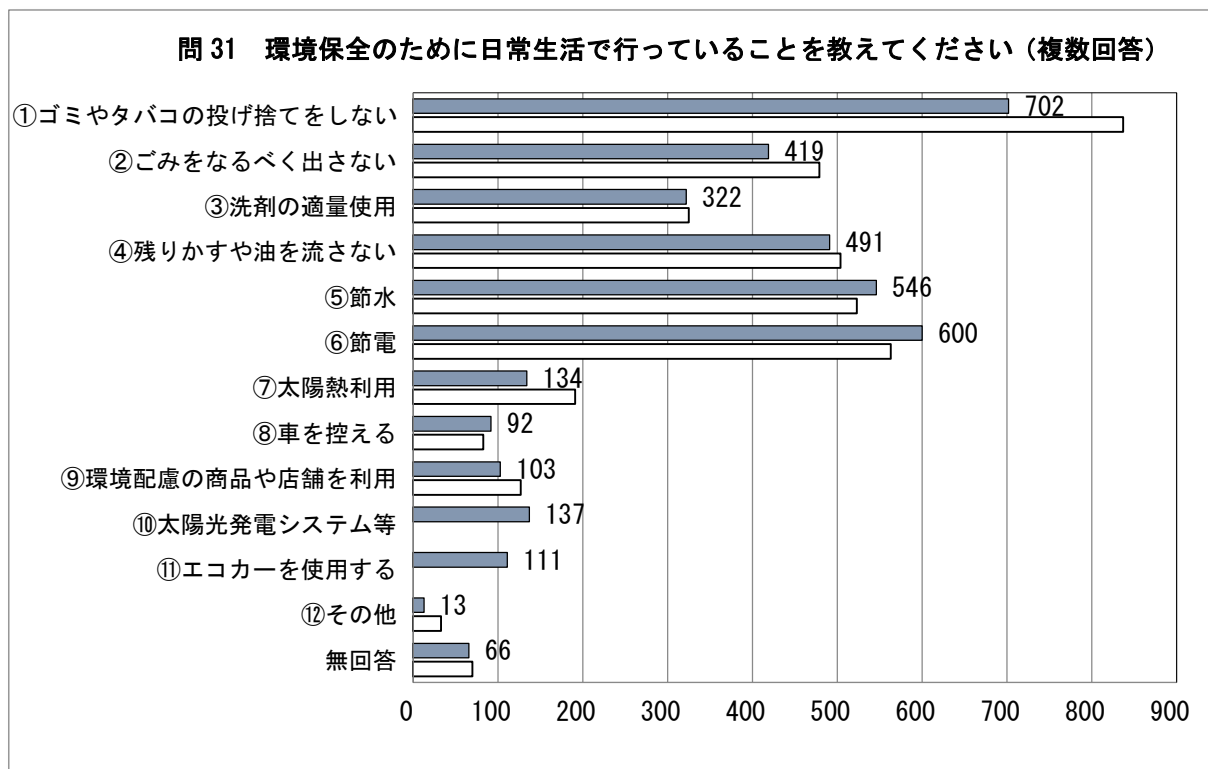


5. 望ましい伊万里市の環境像



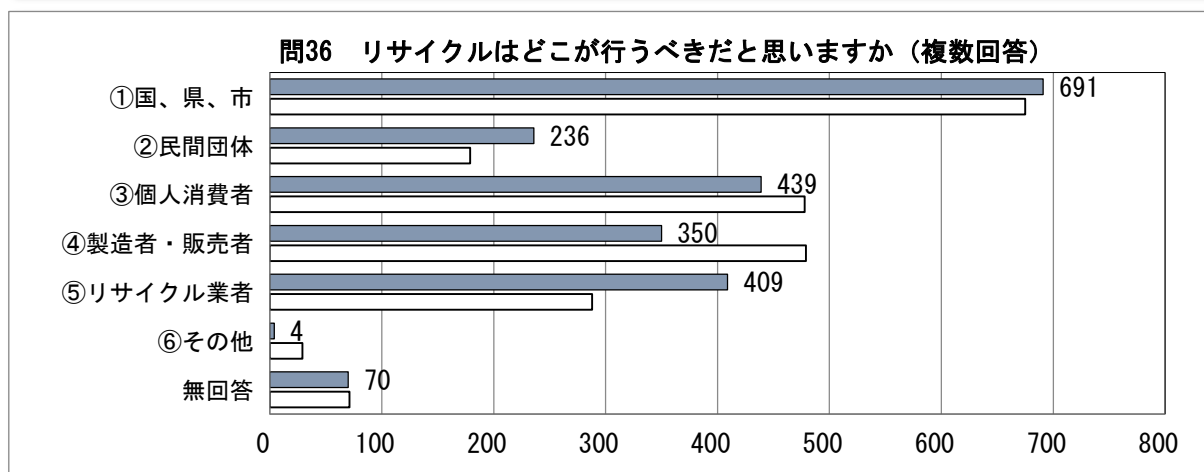
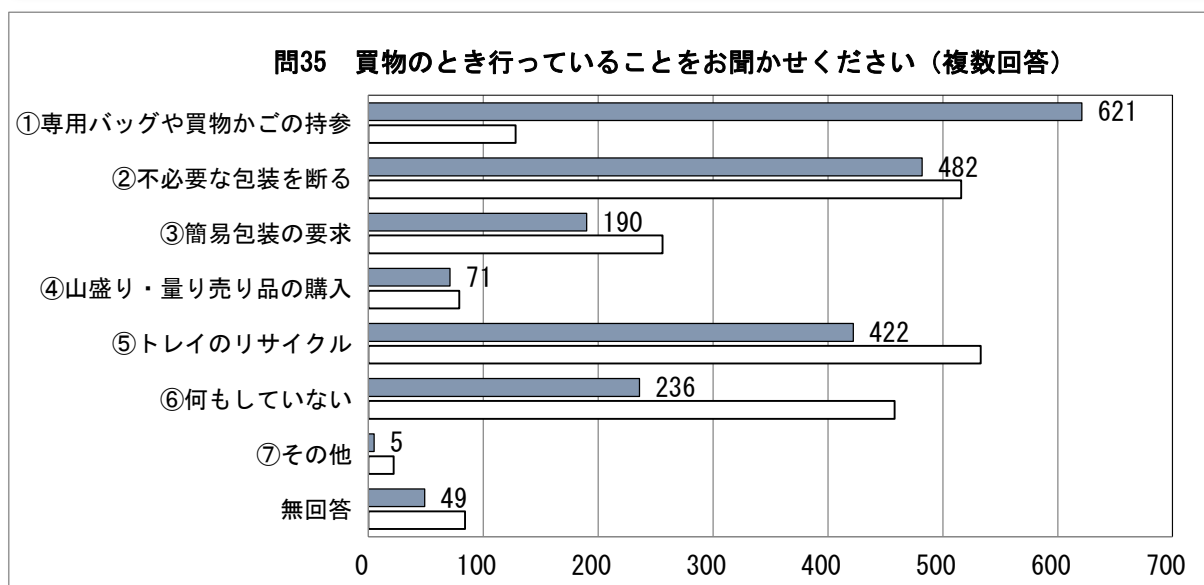
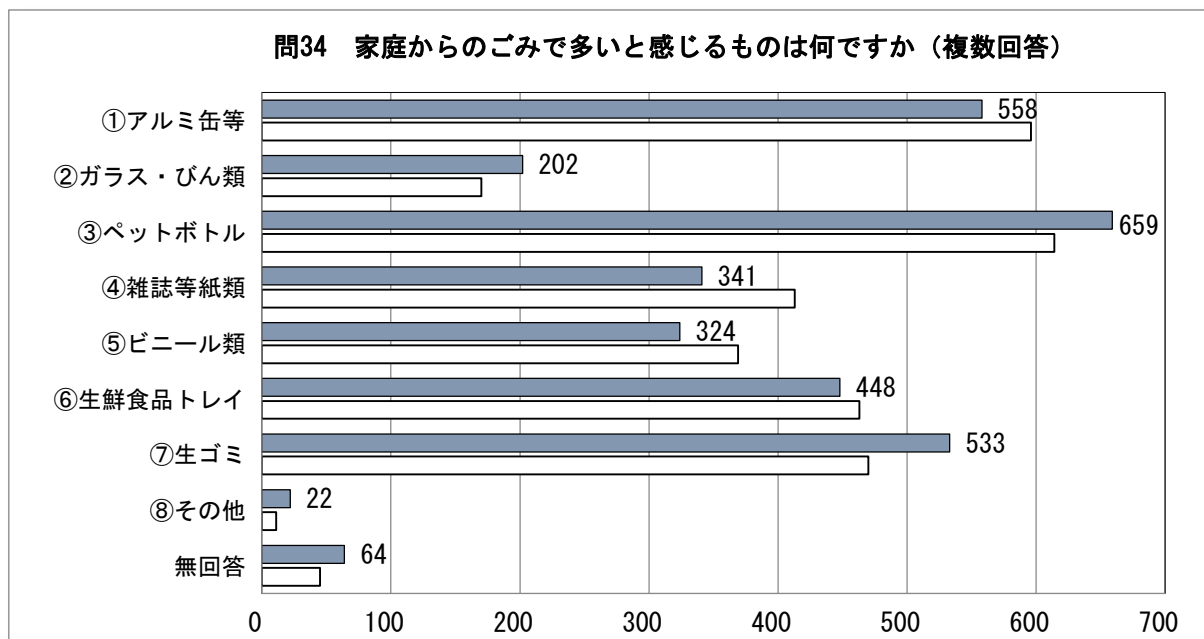
6. 環境保全の取り組みについて

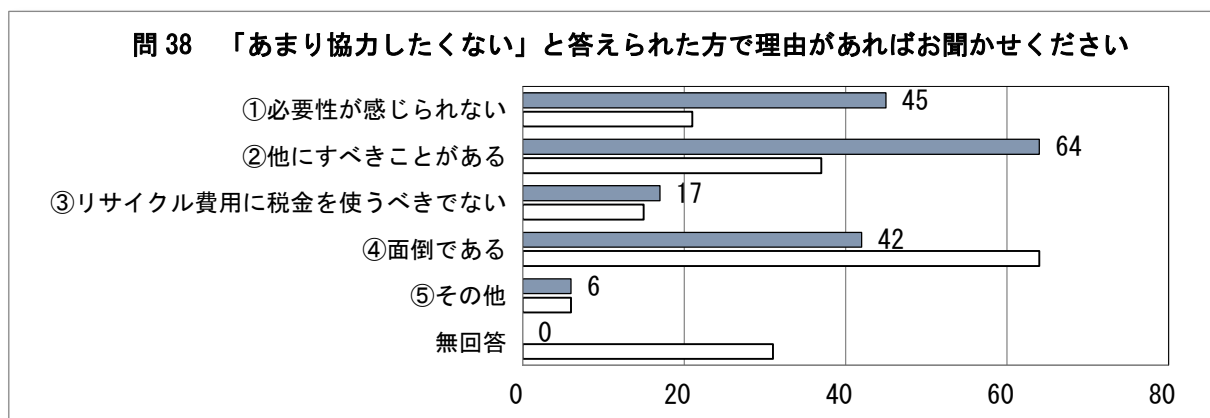
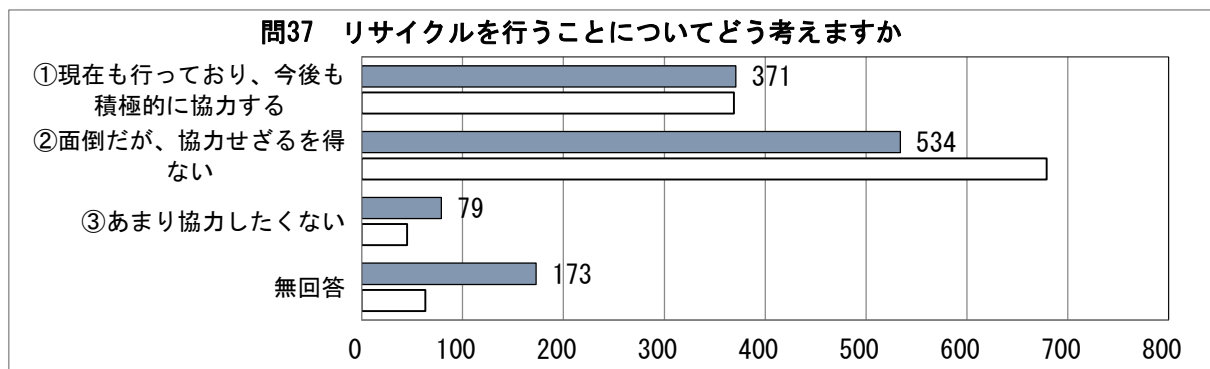
■ 回答数 □ 前回回答数



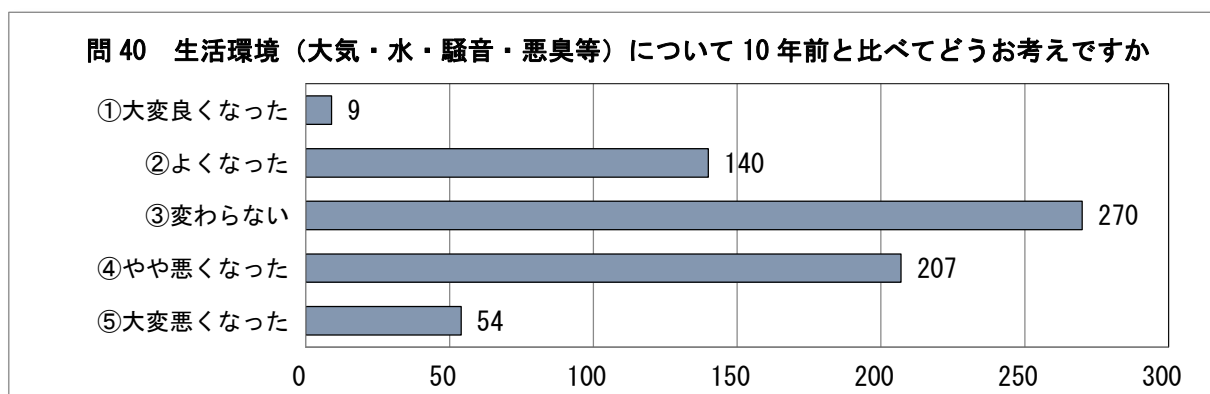
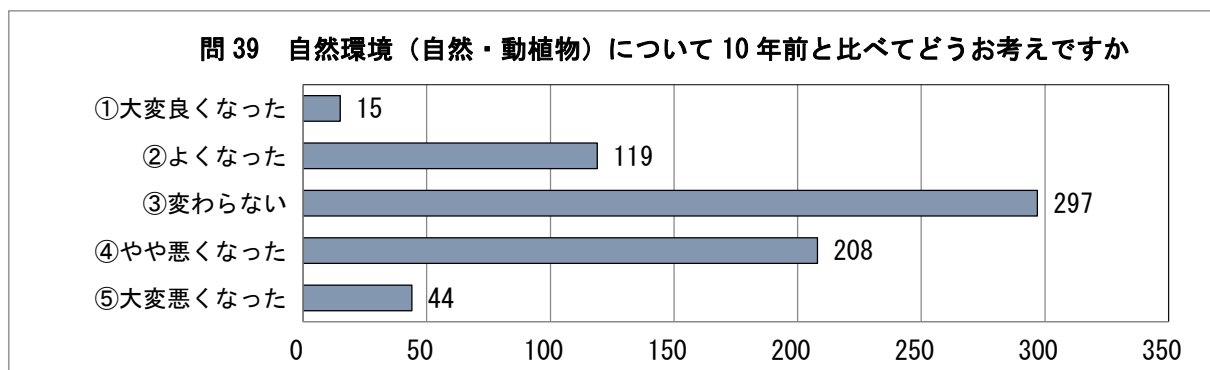
7. 廃棄物・リサイクルについて

■ 回答数 □ 前回回答数



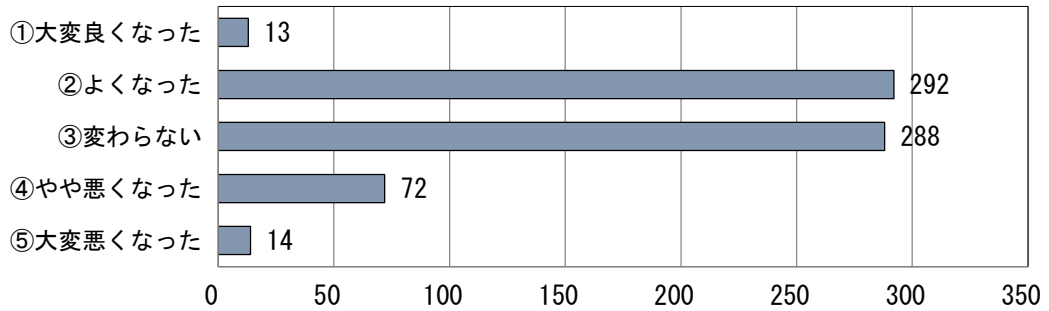


8. 10年前と比べてどうお考えですか（10歳代回答不要）

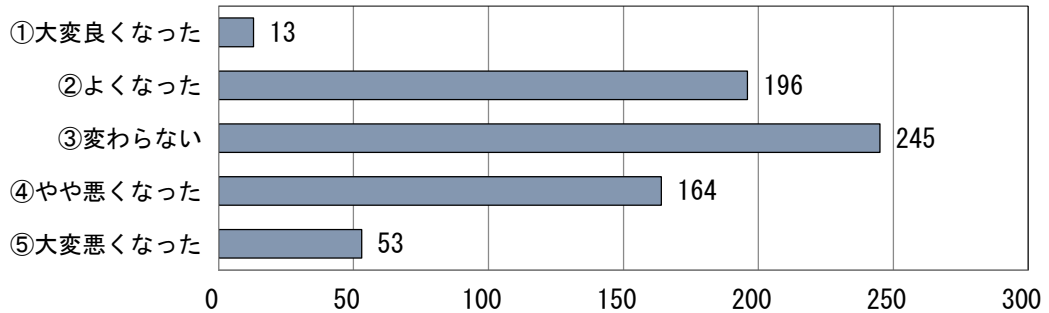


■回答数 □前回回答数

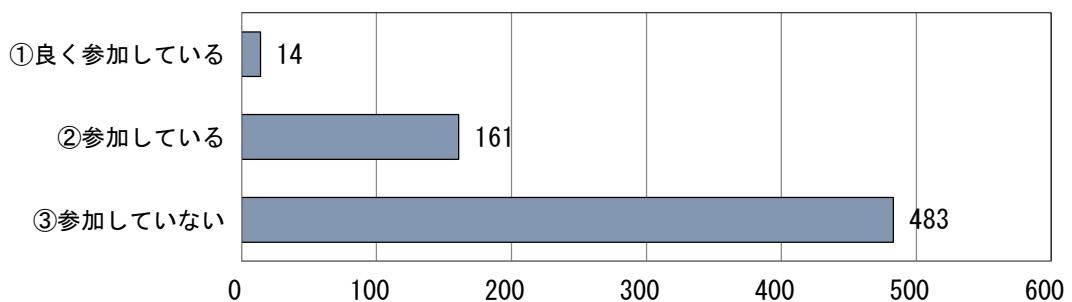
問 41 まちなみ環境（美化・まちなみ計画・公園等）について 10 年前と比べてどうお考えですか



問 42 地球環境問題（省エネ・地球温暖化・循環型社会等）について 10 年前と比べて どうお考えですか



問 43 環境保全体制全般（ボランティア活動への参加、環境講座への参加）について 10 年前と比べてどうお考えですか

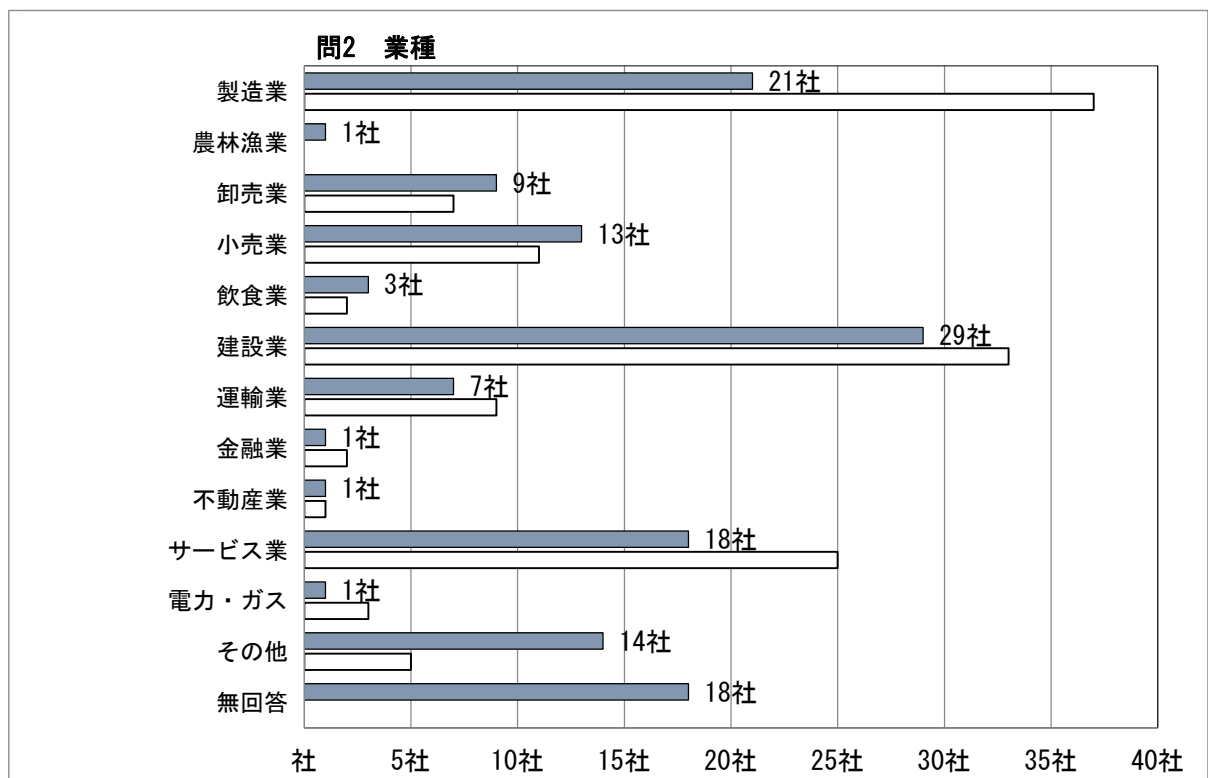
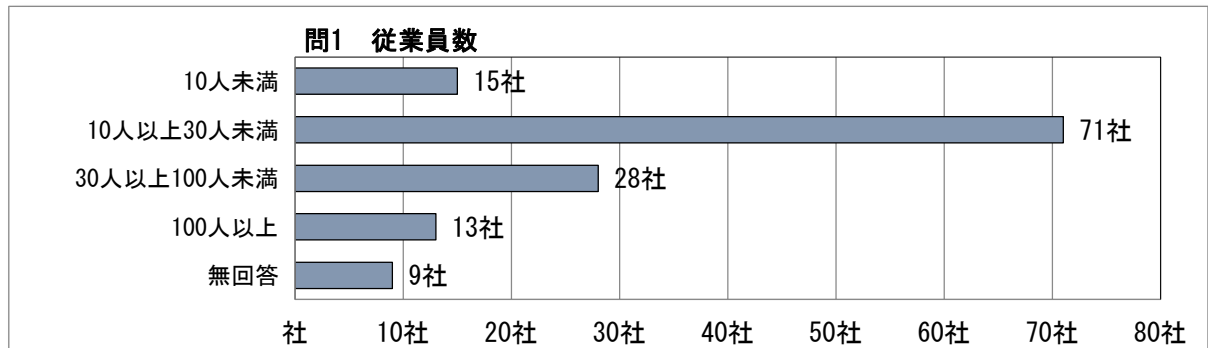


事業所アンケート集計結果

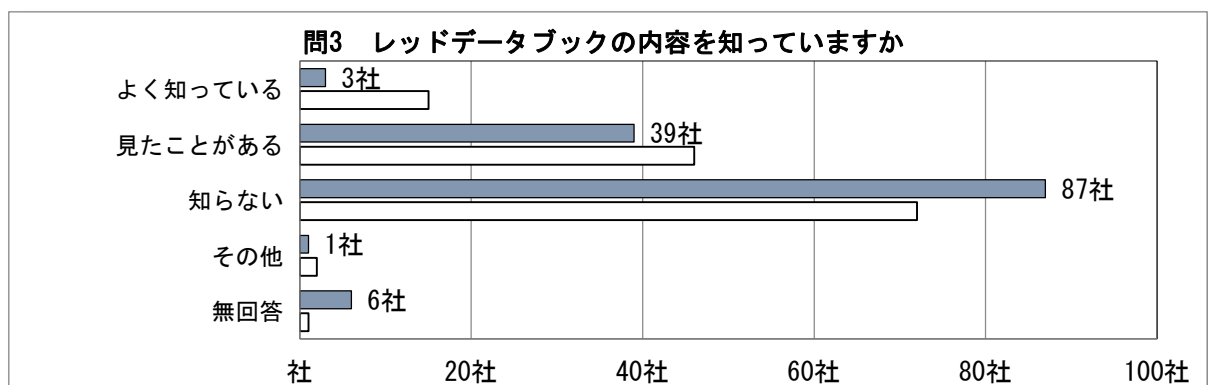
回答事業所 136社

1. 事業所の概要について

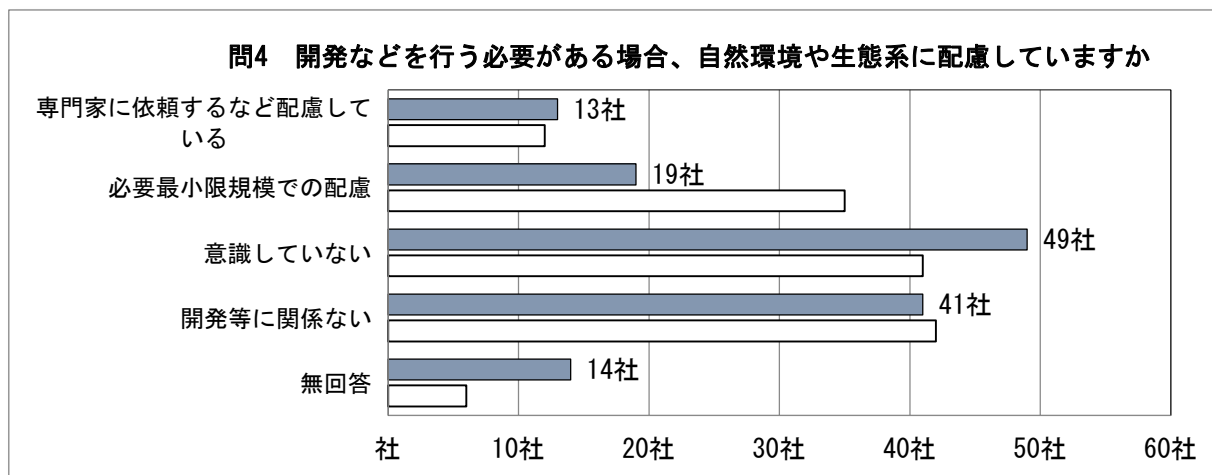
■ 回答数 □ 前回回答数



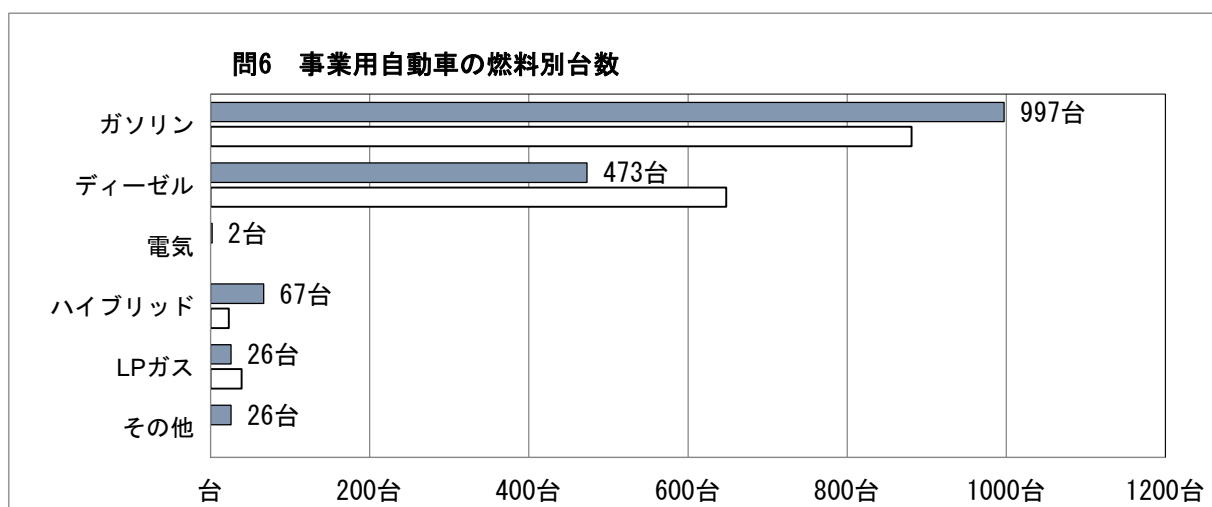
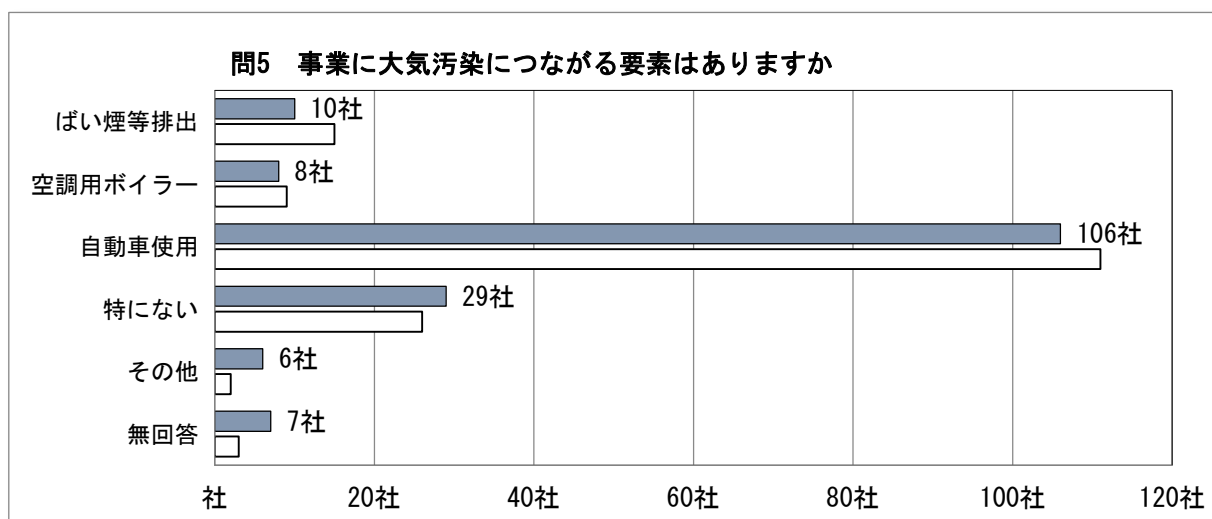
2. 伊万里市の自然について



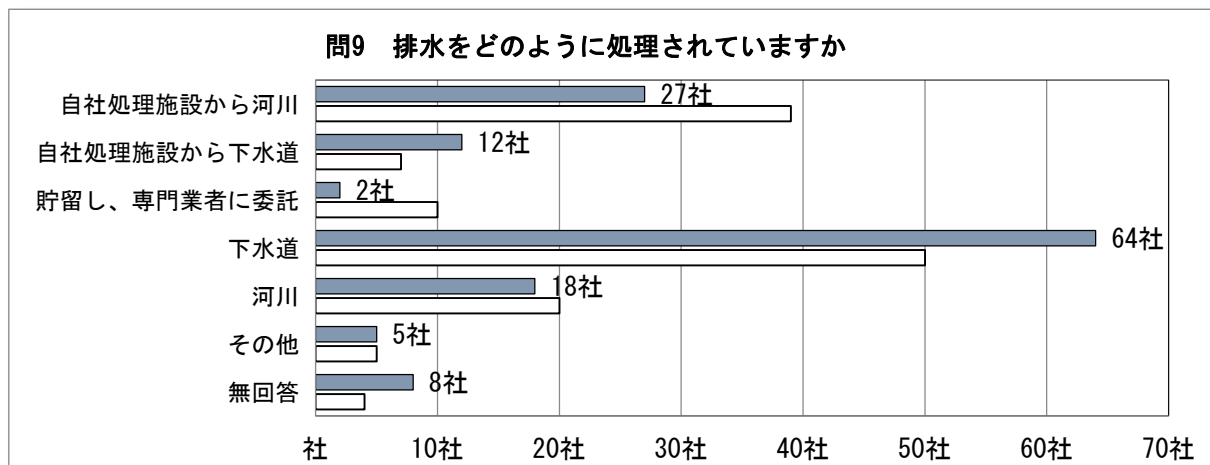
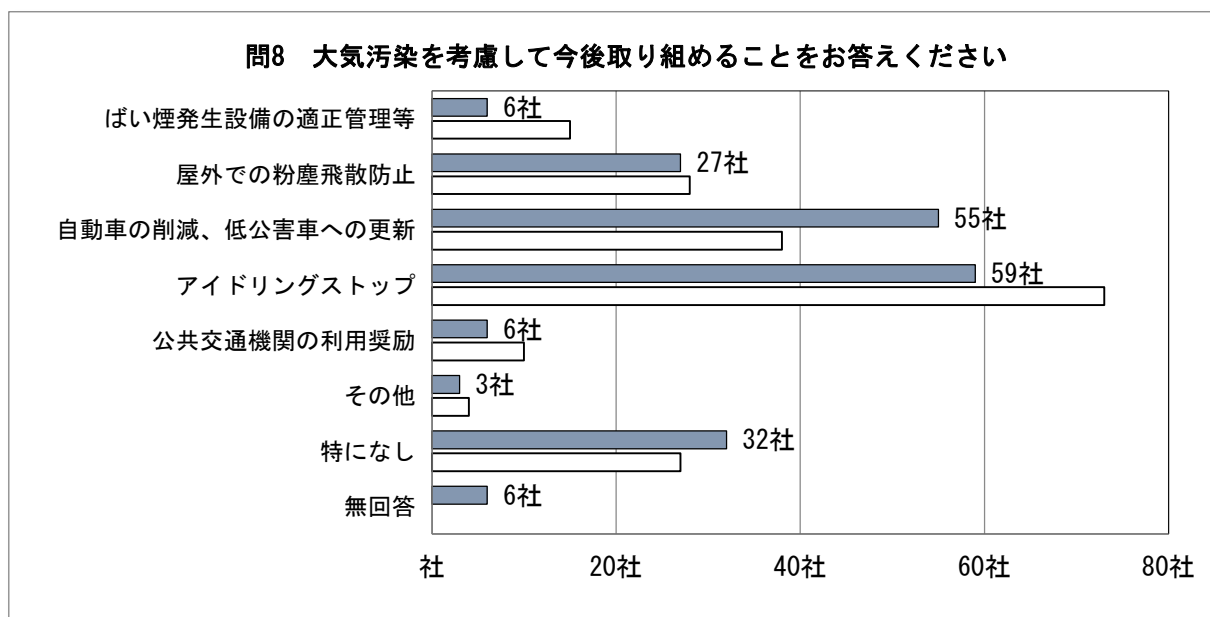
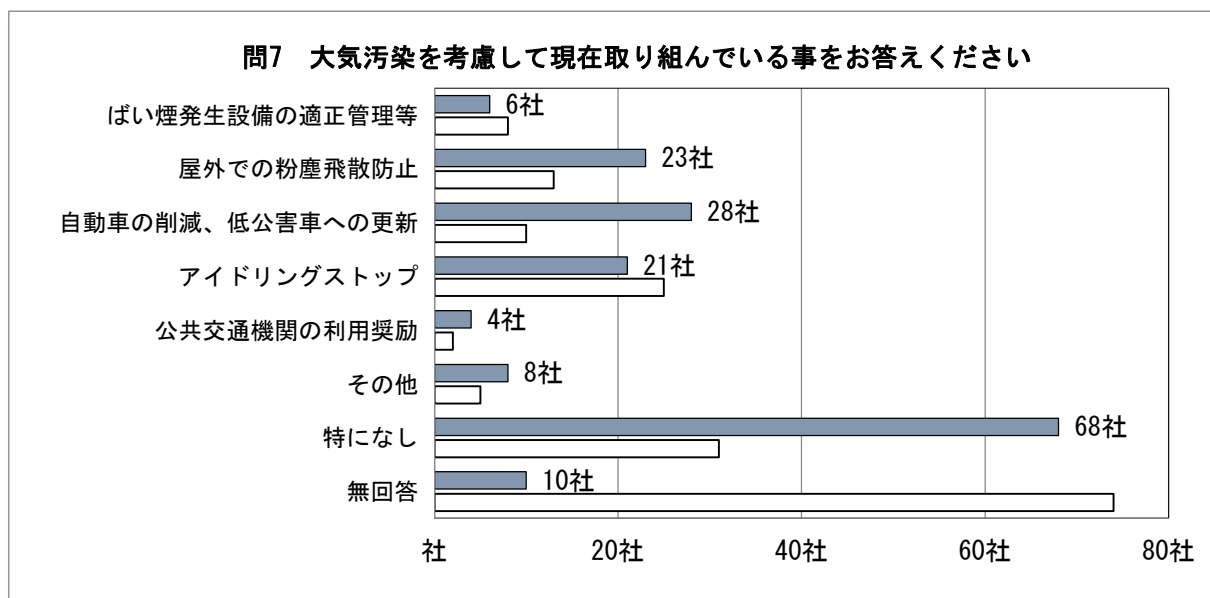
■ 回答数 □ 前回回答数



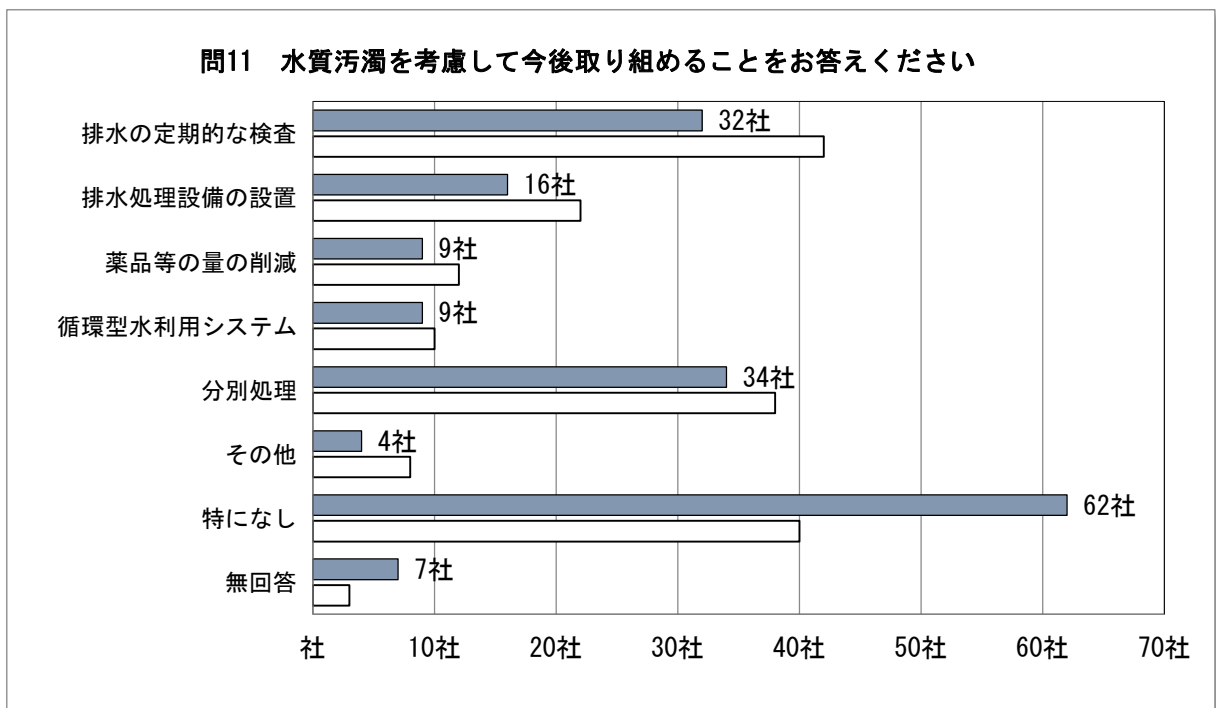
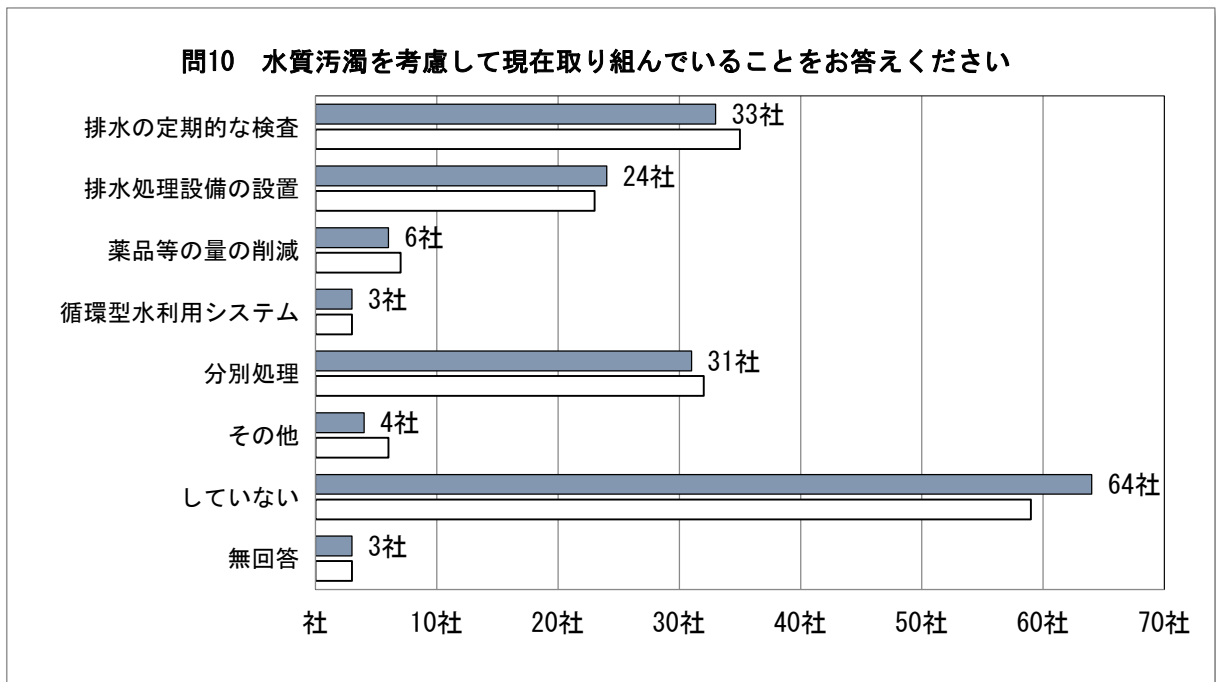
3. 環境負荷について



■ 回答数 □ 前回回答数

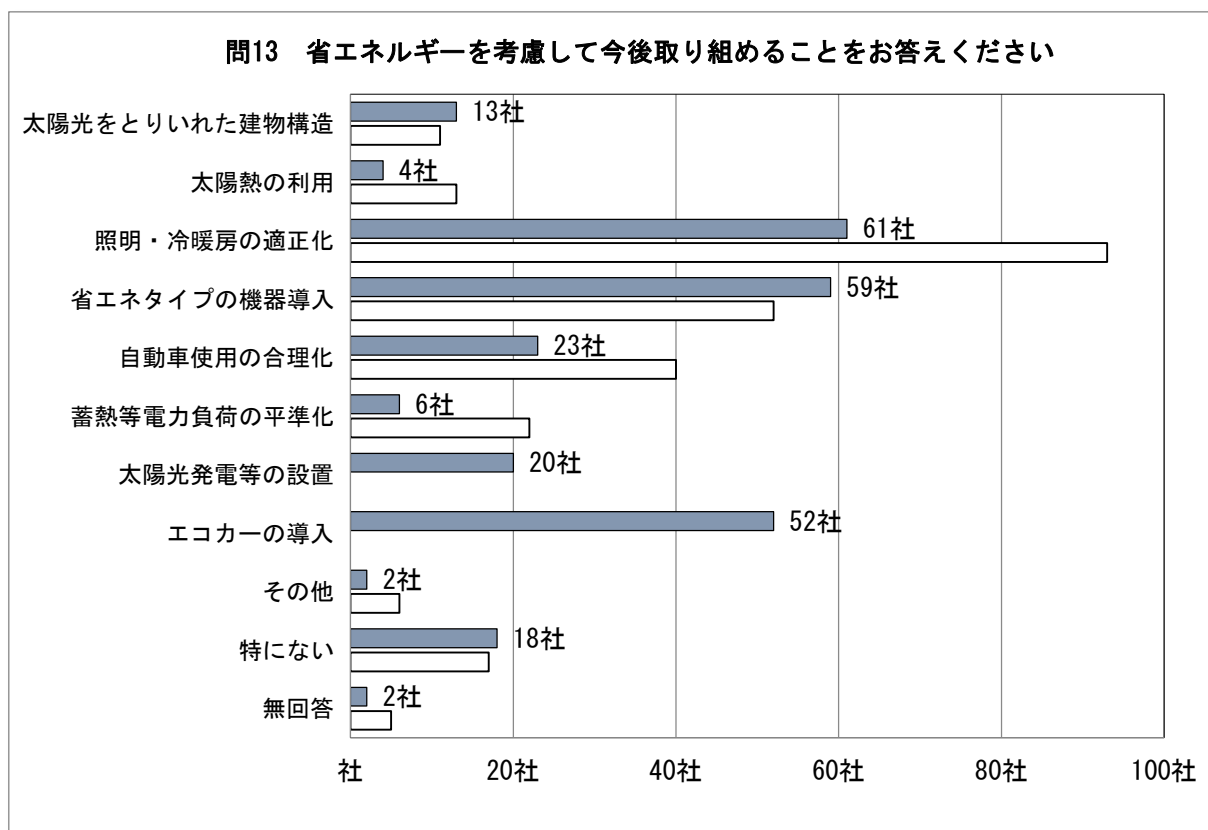
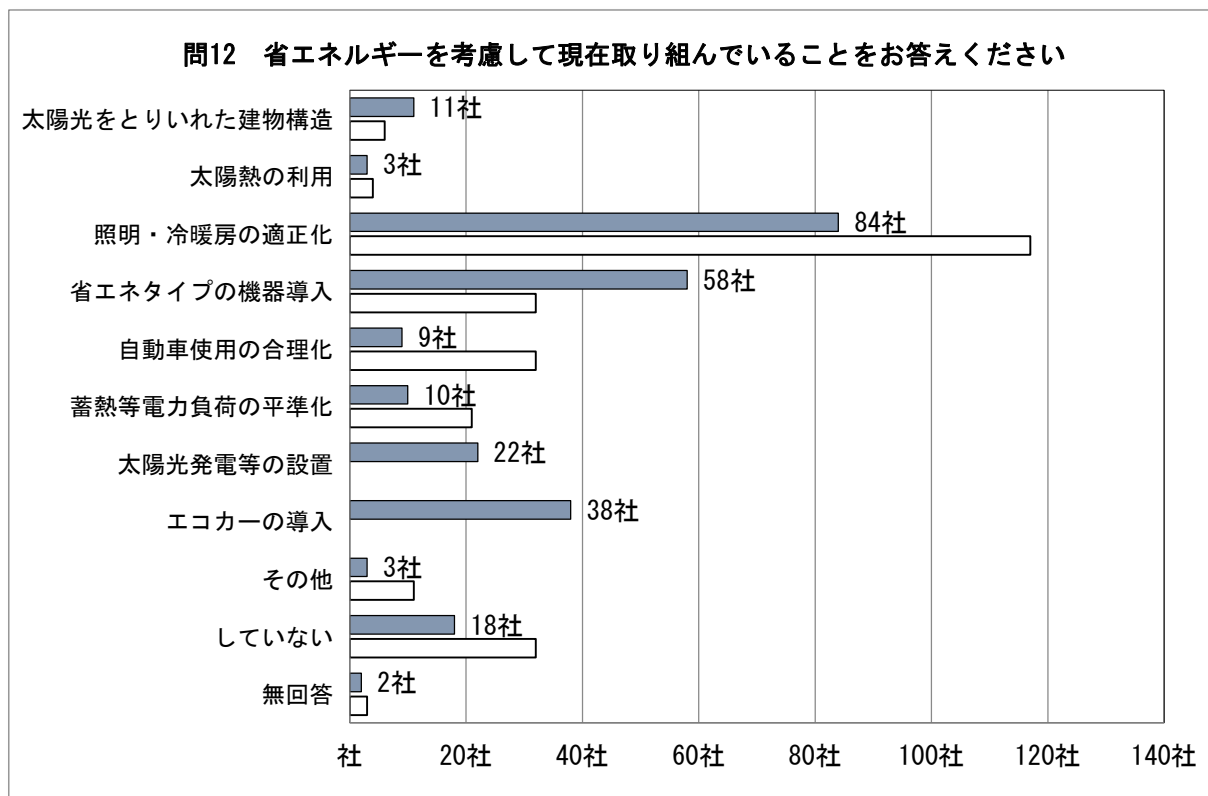


■ 回答数 □ 前回回答数

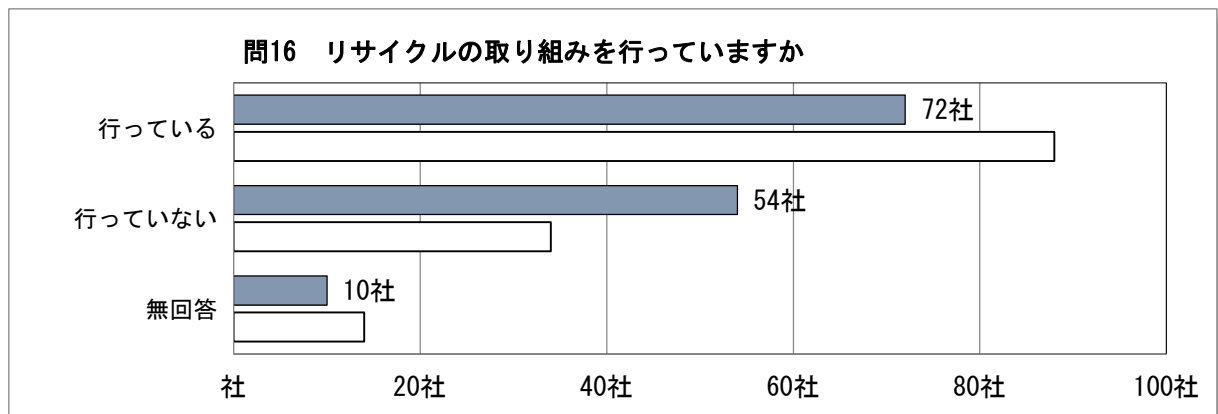
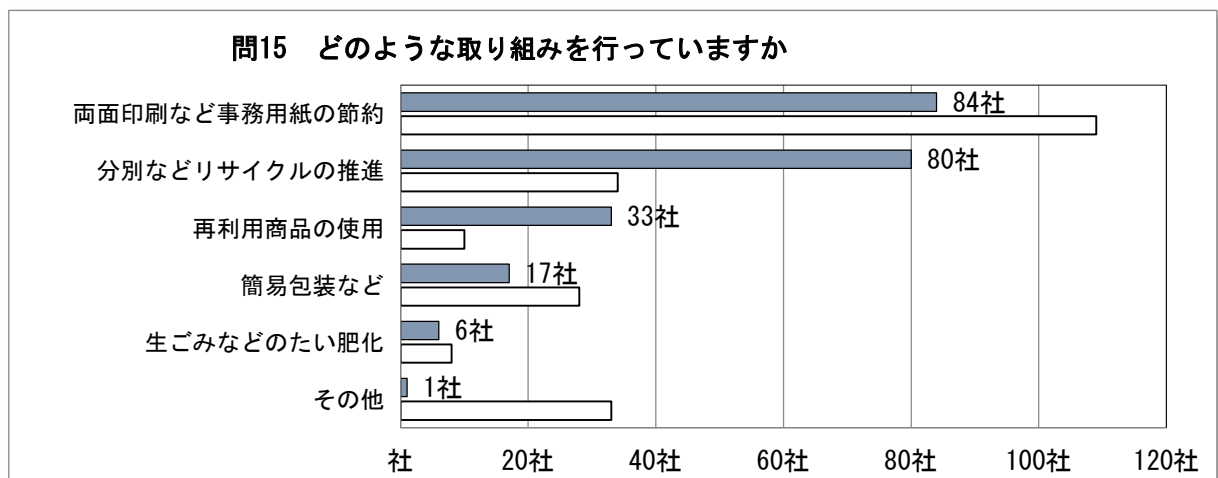
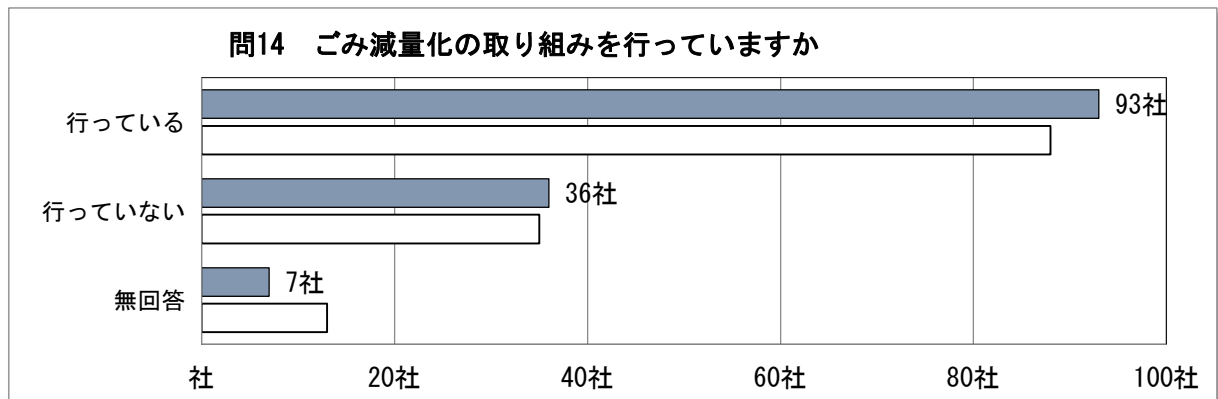


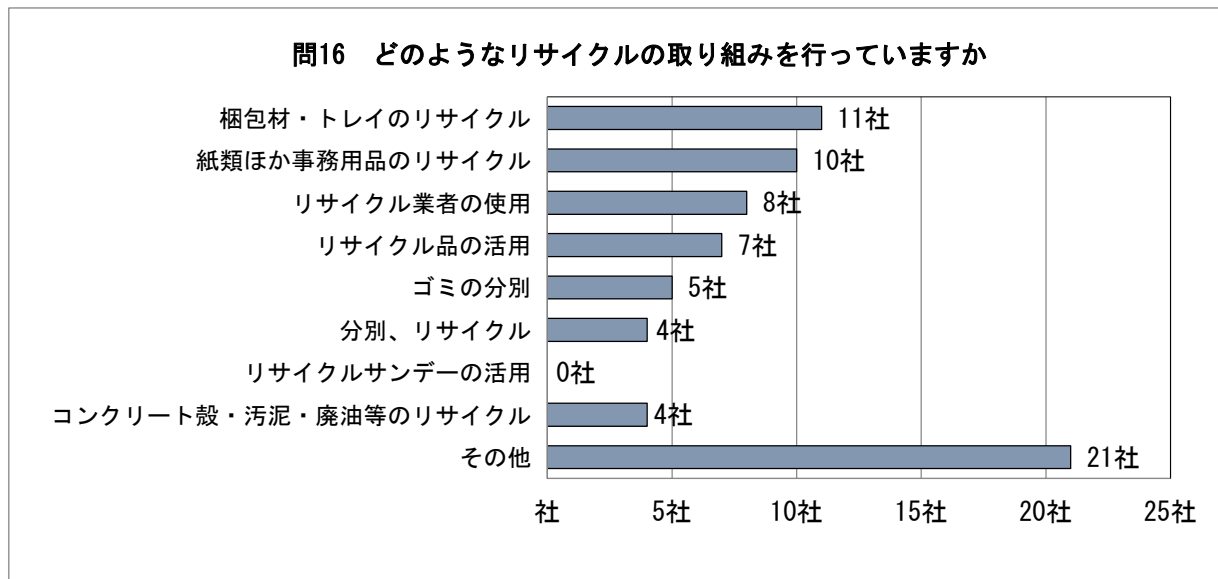
4. 資源の利用と消費について

■ 回答数 □ 前回回答数

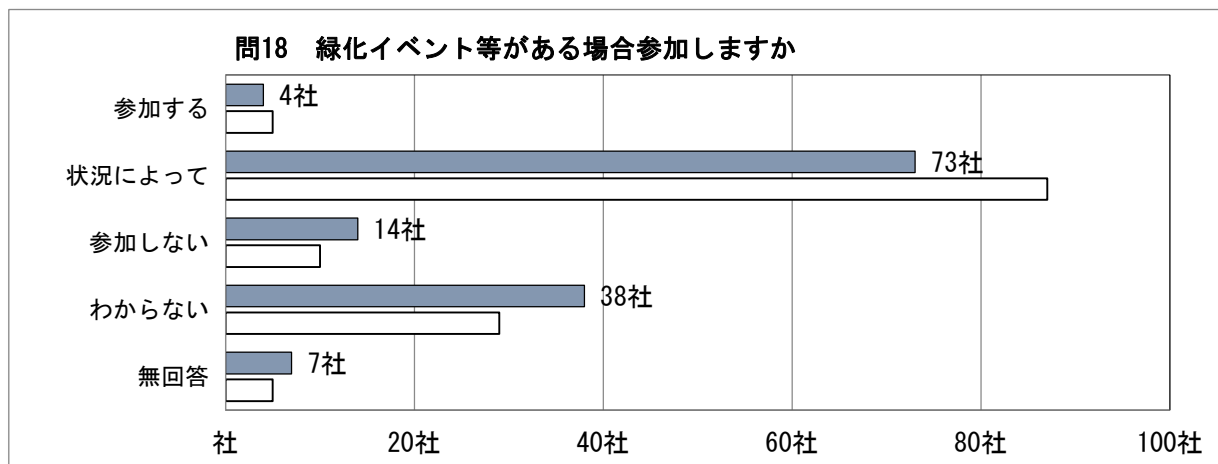
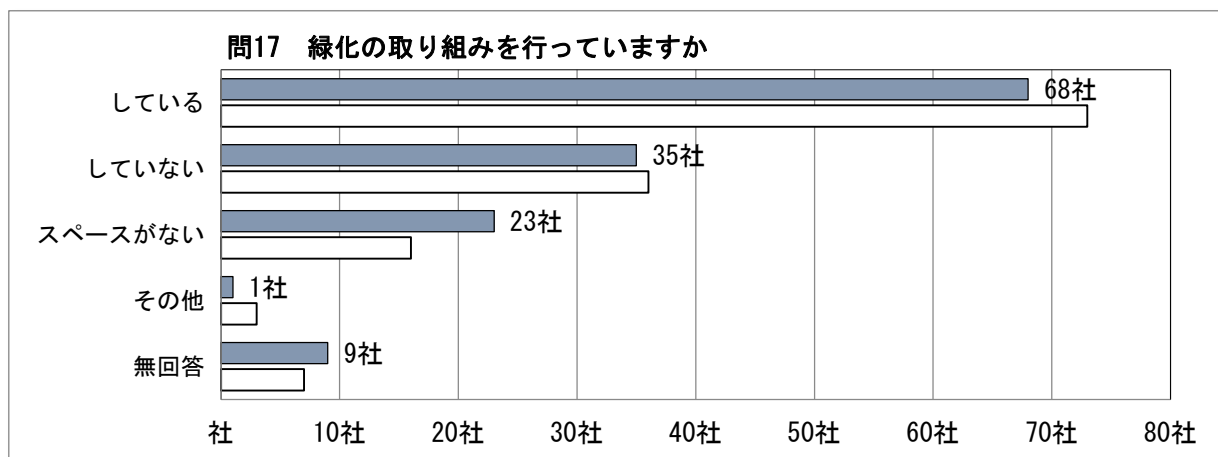


■回答数 □前回回答数

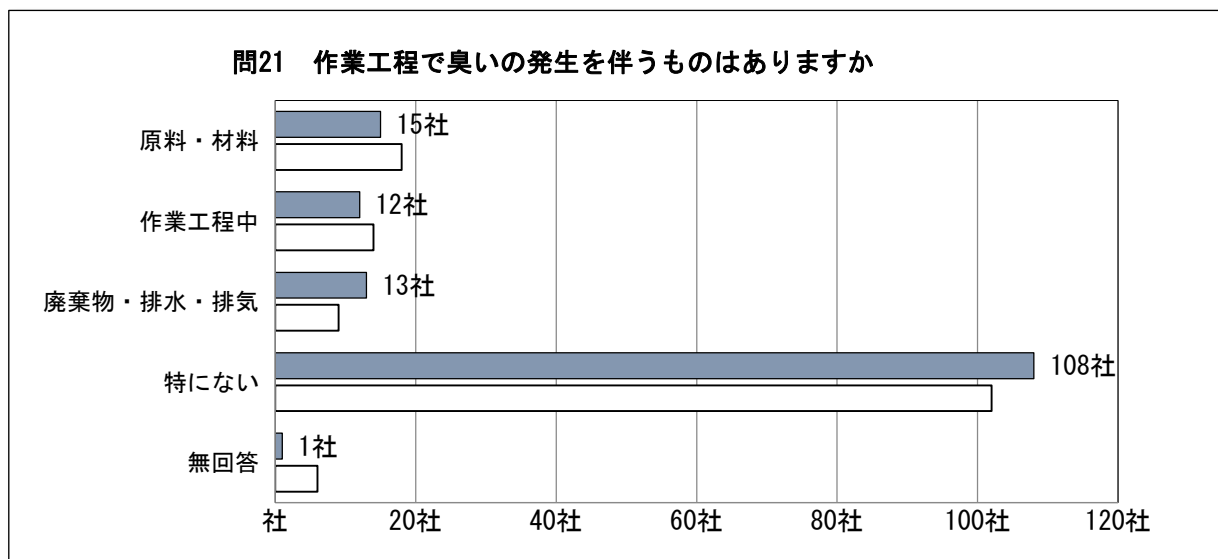
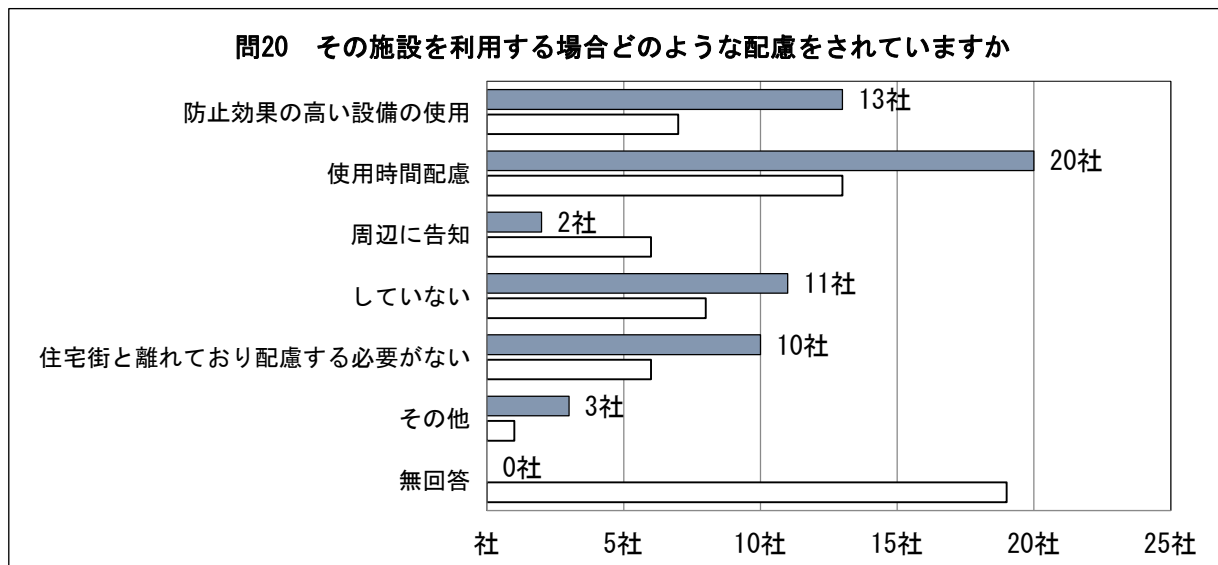
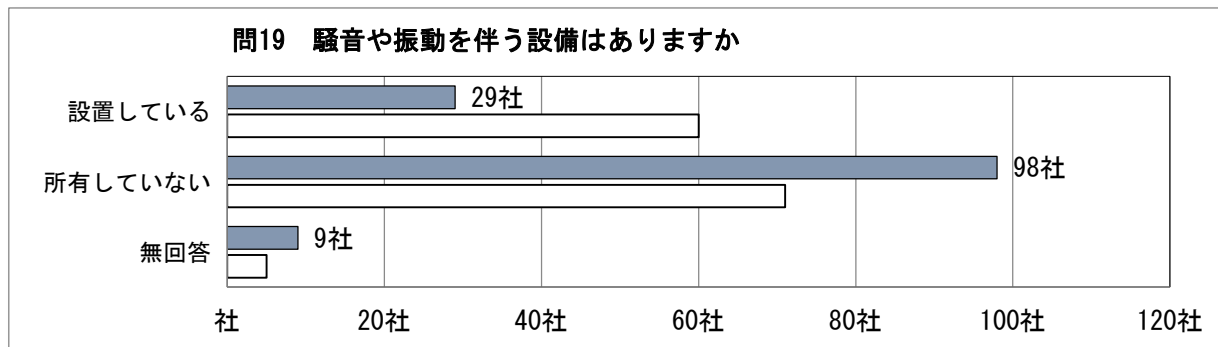




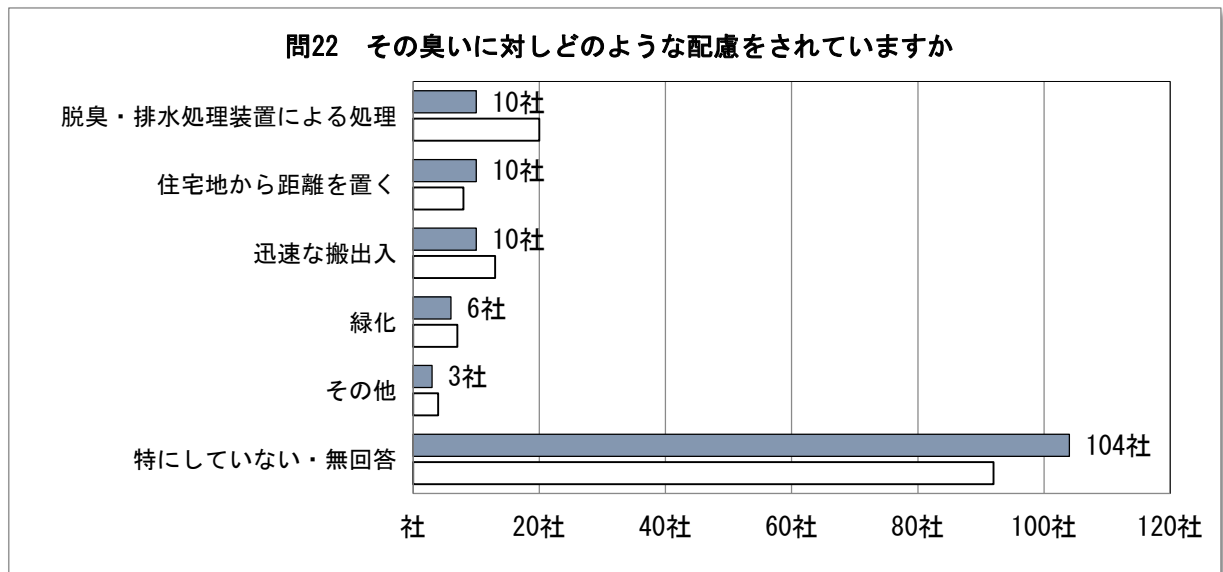
5. 市民生活の快適性について



■ 回答数 □ 前回回答数



■回答数 □前回回答数



3. 伊万里市環境基本計画策定委員会設置要綱

（設置）

第1条 伊万里市環境基本計画の策定に際し、方針等の決定、内容の精査等について、専門的意見等を反映させるため、本市に伊万里市環境基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織）

第2条 委員会は、15人以内とし、次に掲げるところにより、市長が委嘱する委員をもって組織する。

- （1）学識経験者 2人
- （2）教育関係者 1人
- （3）市民代表 2人以内
- （4）各種関係団体 7人以内
- （5）関係行政関係者 3人以内

2 委員会は、この業務を補佐するために関係各課職員をもって構成する庁内委員会を設置する。

（任期）

第3条 委員の任期は、伊万里市環境基本計画の策定が終了したときまでとする。

（委員長及び副委員長）

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集し、その議長となる。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、市民部において処理する。

（委任）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附則

この要綱は、平成17年4月18日から施行する。

この要綱は、平成27年6月16日から改正する。

4. 伊万里市環境基本計画策定委員名簿

委員構成		団体・役職名	委員名
1	学識経験者 2名	学識経験者（伊万里市史執筆事務）	金子 義弘
		学識経験者（カブトガニを守る会）	酒見 良司
2	教育関係者 1名	伊万里市小中学校校長会	岩橋 晃
3	市民代表 2名以内	市民公募	小杉 知久
		市民公募	井関 新
4	各種関係団体 7名	伊万里市区長会連合会	満江 洋介
		伊万里市農業協同組合	山口 千代美
		クリーン伊万里市民協議会	平山 智美
		伊万里商工会議所	山口 光子
		いまり女性ネットワーク	渡邊 きよめ
		伊万里市小中学校連合 PTA	福地 佳野
		佐賀玄海漁業協同組合	久保 美保子
5	関係行政機関 3名	伊万里保健福祉事務所	永島 新二
		伊万里農林事務所	小山田 順二
		伊万里土木事務所	貞松 和幸
	計	15名（うち、女性6名）	